

平成23年度 文部科学省委託事業

---

# 社会教育による 地域の教育力強化プロジェクト 実証的共同研究報告書

---

学校と地域の総合的な活性化

---

池田市教育コミュニティづくり推進連絡会

---



## ～ 学校と地域の総合的な活性化をめざして ～

「教育コミュニティ」とは、教育や子育てに関する課題を学校、家庭、地域の団体・グループなどが共有し、課題解決に向けた協働の取り組みを通して、新たな人のつながりをつくり出すものです。池田市では、「地域の子どもは地域で育てる」を合言葉に、この「教育コミュニティづくり」を推進してきました。

これまでも市内各学区において、環境整備活動、土曜日や放課後の学習補助、フェスティバルなど、学区の特色に応じた取り組みがおこなわれてきました。また、キッズランドや安全見守り活動などによる安全・安心な学校園づくりについても、地域や保護者の方にご活躍いただいているところです。

このような具体的な活動を、市民と行政が一体となって考え、実行し、検証していく機関として、「教育コミュニティづくり推進連絡会」が設置されています。教育コミュニティづくり推進連絡会では、子どものよりよい育ちのために保護者や地域が、日々、学校園に関わることができるような仕組みづくりをめざしてきました。

特に今年度は、文部科学省の「社会教育による地域の教育力強化プロジェクト」共同研究の指定を受けることになり、教育コミュニティづくりの一層の進展と拡充をめざし研究を進めてきました。

共同研究を進めるにあたり、今年度は、池田中学校区の教育コミュニティづくりを研究対象といたしました。

池田中学校区では2007年度より「池田中学校マイタウンプロジェクト(MTP)」として、地域密着型の学校づくりをめざし、学校にさまざまな地域の方々が集う仕組みをつくってきました。昨年度よりNPO化し、活動の範囲を中学校区全体に広げるなど、さらに活動を発展させようとしております。

池田の子どもたちが、よりよく育っていくには、どのようなことを考えていけばよいのか、地域として、保護者として、どのようなことができるのか…。

MTPの取り組みを充実させ、また住民意識アンケートの実施やシンポジウムの開催などを通して、いろいろな角度から考えていくことで、学校と地域の総合的な活性化のモデル開発につなげることができるのではないかと考えております。

この事業や日常のMTPの取り組みを通して、微力ではありますが、池田市の教育コミュニティづくりの推進に貢献できれば幸いと思っております。

最後になりましたが、本共同研究を実施するにあたり、多大なるご協力をいただきました皆様に感謝の意を表しまして、ご挨拶とさせていただきます。

池田市教育コミュニティ推進連絡会

会長 坂上 昭 栄

●●● 成果報告書の発行によせて ●●●

## ～ 地域と共にある学校の姿を求めて ～

「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を育み、主体的に社会に参画する力を持った子どもを育てるには、学校・家庭・地域が一体となって子どもたちの教育に関わる必要があります。

本市では、「教育のまち池田」特区(英語活動、科学・情報の時間)をはじめ、音楽教育、自然体験活動など多様な教育活動を展開するとともに、学校園協議会や教育コミュニティづくり推進事業など、地域に開かれた学校園づくりに努めてきました。

平成23年度からは、市内全中学校区において、「小中一貫教育」の研究を始めています。学習面や生活面における「指導内容」と「指導方法」に一貫性を持たせ、義務教育9年間の「学び」と「育ち」に、すべての教職員が責任を持ちます。一人ひとりの可能性を最大限に伸ばすことを目標に、新しい時代を生きる子どもを育成する教育システム、それが「教育のまち池田」のめざす「小中一貫教育」です。

このような、9年間を見据えた連続した教育を、学校だけが行うのではなく、家庭や地域が連携し、支えることは、本市の教育をすすめていく上で、重要な課題として位置づけています。小中一貫教育で学校間の「たてのつながり」をつくっていきませんが、家庭や地域、との連携を深めることは、「よこのつながり」につながっていくと考えます。

現在も各中学校区では、学校支援コーディネーターを中心にボランティアと連携し、放課後などの学習支援、クラブ活動支援、環境整備活動、学校図書館の整備など、さまざまな活動をおこなっています。

今後も、学校が核となり、たてとよこの連携を深め、「地域の子どもは地域で育てる」という視点で、教育コミュニティの活動を活性化させていきます。さらには、市立図書館などの多くの教育関係機関とも連携し、子どもたちや地域の方の学びを、総合的に捉えていくことが出来ればと考えます。

今回の共同研究では、池田中学校区MTPがおこなう具体的な活動を通して、教育コミュニティをさらに活性化させ拡充する方策を考え、報告書としてまとめさせていただきました。

市内の各学校園が核となり、学校、家庭、地域がつながることで、子どもたちの豊かな学びと育ちを実現できるよう、この研究の成果を生かし、今後も教育コミュニティづくりの推進に努めてまいりたいと考えています。

今後とも、皆様方のご指導、ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

池田市教育委員会

教育長 村 田 陽

# 目次

## ごあいさつ

## 事業報告

### 研究の視点

学校と地域を融合した新たな学校づくり  
～池田中学校区MTPの実践～

### 考察

池田市「学校と地域の総合的な活性化」シンポジウム（別冊）  
池田中学校区住民意識調査アンケート（別冊）

## 資料

資料1 MTPパンフレット・リーフレット

資料2 MTP通信

資料3 住民意識アンケート内容

資料4 池田中学校区MTP活動記録映像（DVD）



# 研究の視点

# 池田市教育コミュニティづくりの現状と課題

## 1、研究の視点

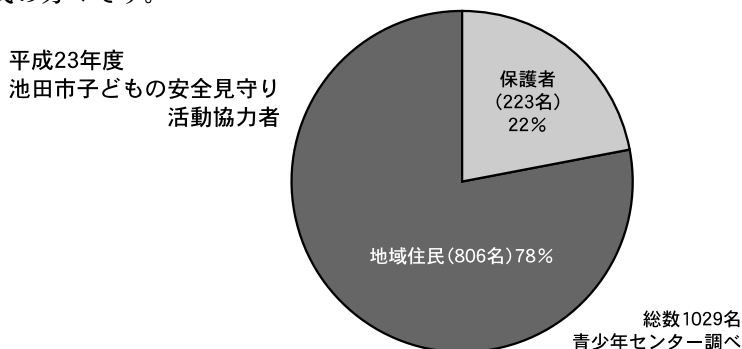
本市においては、「ふれあい教育推進事業」として平成7年度より中学校区ごとに地域と連携した取り組みを進めてきました。平成22年度からは、「教育コミュニティづくり推進事業」として、さまざまな側面から学校支援活動を進める中で、学校を核とした教育コミュニティづくりを推進してきました。中学校区によって、推進状況は異なりますが、どの中学校区においても学校と地域が連携した学校づくりや地域づくりに関する意識は高まっています。

今後、教育コミュニティづくり推進事業、学校支援地域本部推進事業、池田キッズランド(おおさか元気広場)を有機的に組み合わせて、教育コミュニティをさらに拡充していくために、本章では本市の教育コミュニティづくりの現状を認識・分析し、課題を見出し、その解決に向けた取り組みの方向性を探ることとします。

## 2、池田市教育コミュニティづくりの現状と課題

### ①学校支援活動への保護者のかかわりについて

下のグラフは、本年度5月に池田市教育委員会青少年センターがまとめた、登下校の安全見守り活動参加者の所属割合です。大まかに、保護者とそれ以外の地域の方に分けて示しています。参加者の詳しい所属は、自治会、青少年指導員、防犯委員、地区福祉委員、友愛会、民生委員、主任児童委員、キッズランド関係者、更生保護女性会などです。安全見守り活動参加者の人数の約8割が地域住民の方々です。

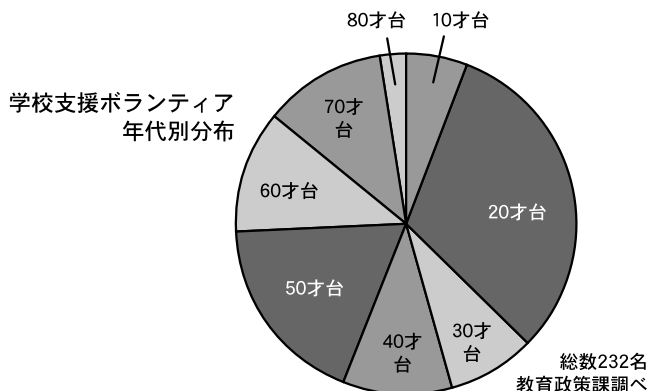


右のグラフは、池田市教育委員会の人材バンク登録者のうち、学校支援ボランティアの年代別割合を示しています。

放課後や休日の学習支援や部活動支援、学校環境整備や読み聞かせ活動など、さまざまな支援が幅広い年代の地域住民の力を借りておこなわれています。

学校支援地域本部の取組みによって、年々ボランティアの人数は増えてきていますが、地域住民の方々の学校支援の参加数に比べて、保護者の関わりが少ないことが課題と考えています。

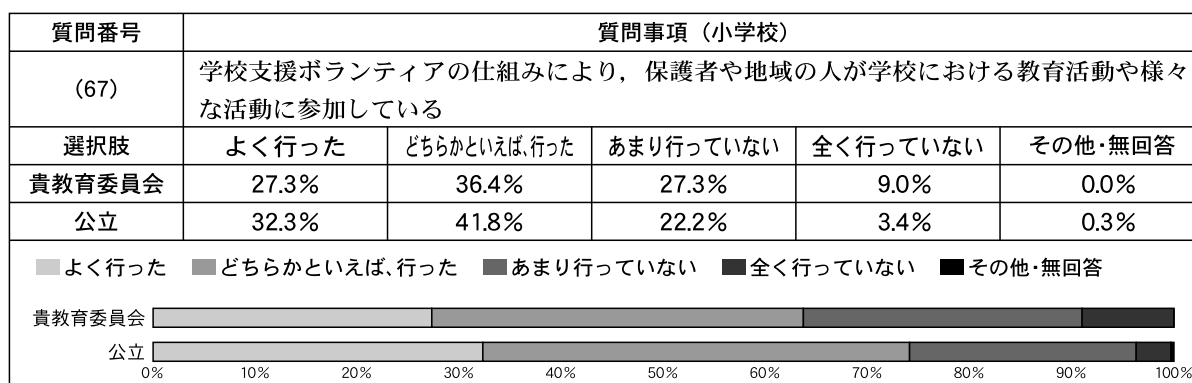
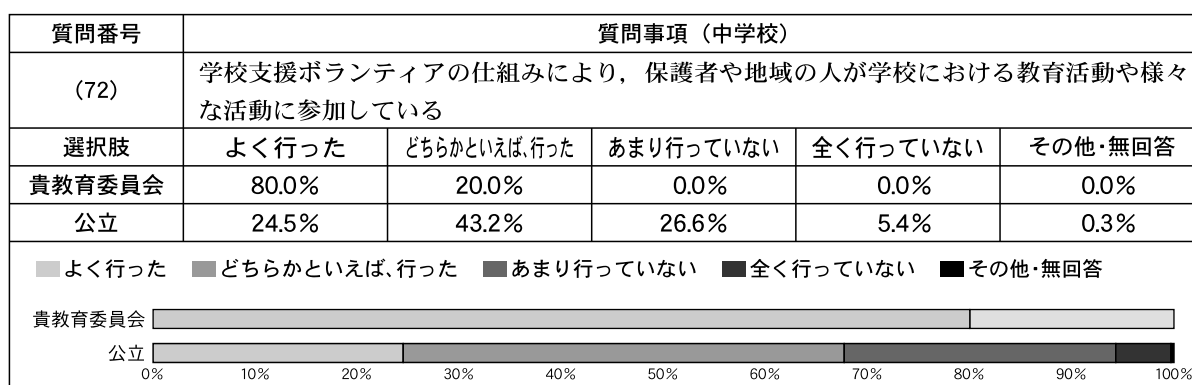
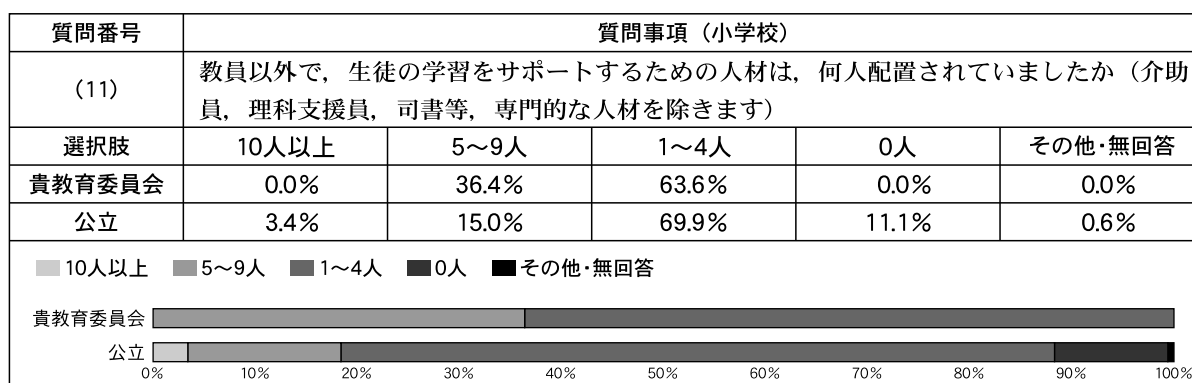
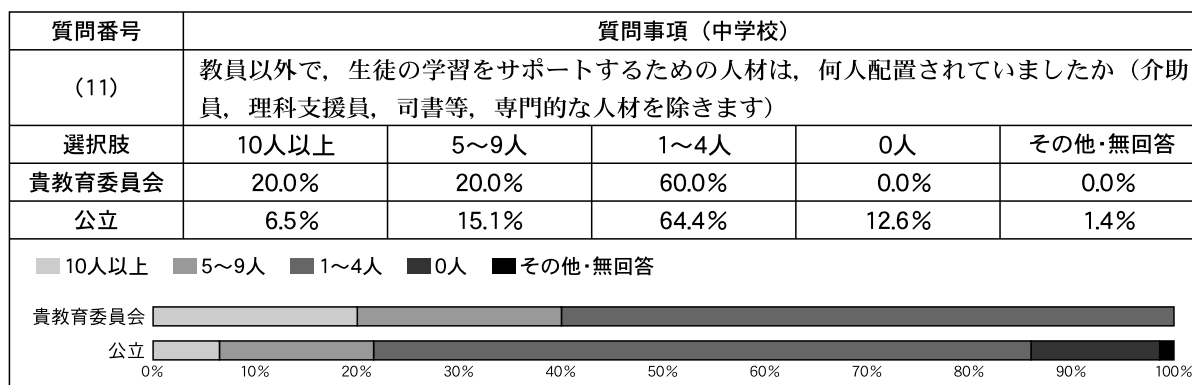
働く世代の保護者にとって平日の学校支援ボランティアへの参加は難しい面があります。30才代、40才代の保護者層の関わりを広げるためにも、この世代の保護者や地域住民がかかわりやすいような学校支援ボランティアのスタイルを考えていくことが必要だと考えます。



②学校支援活動への地域住民のかかわりについて

文部科学省が実施した「平成21年度全国学力・学習状況調査」の結果分析では、「保護者や地域人材が学校の諸活動に参加している学校が学力が高い傾向がある。」ことや、「地域人材や資源を積極的に活用している学校が学力が高い傾向がある。」ことが指摘されています。地域住民との協働によって学校教育がよりよい方向に進んでいくために、授業や放課後学習、土曜日の学習の中で地域人材を活用することが第一歩になると考えられます。

下の表とグラフは、「平成23年度大阪府学力・学習状況調査」の学校アンケートを集計したものである。本市では、小学校でも中学校でも、多くの外部の方に、子どもたちの学習のサポートをしていただいていることが分かります。



前ページの「平成23年度大阪府学力・学習状況調査」の設問(72)(67)から、特に小学校において学校支援ボランティアの活動に更なる広がりを望むことができます。

活動を広げていくためには、学校と地域をつなぐキーパーソンが存在が欠かせません。本市でも、学校と地域を結ぶ学校支援コーディネーターがまとめ役となり、学校の環境整備や子育て講演会、子どもたちの学習支援が展開されています。研修会等の企画、運営を行う学校支援コーディネーターの存在は、教育コミュニティづくりの広がりに直結しています。

しかしながら、コーディネーターのメンバーが固定化され、学校支援にかかる負担が一部のコーディネーターに偏ってきているという現状があります。そのため、学校支援コーディネーターの人材確保が課題と考えます。中学校区で学校支援コーディネーター・学校支援ボランティアの共有化を図り、各学校の教育コミュニティづくり推進事業、学校支援地域本部推進事業、池田キッズランドに関わるコーディネーター同士の横のつながりを広げていくことが必要です。

### ③地域住民の居場所づくりについて

「学校の花壇に花を植えるときに協力した。しかし、次に花壇の様子をみたのは花が枯れた後でした。」とか、「学校の敷居が高くて、なかなか日常的には入りにくい。」など、コーディネーターの話から、学校へ関わることに難しさを感じている人が多いことが分かります。学校支援を充実・発展させていくためにコーディネーターやボランティアの居場所をつくっていくことが必要です。

昨年度、市内小学校に学校支援拠点整備事業として、地域の方の活動拠点となる居場所の整備をおこないました。また、校門の近くには見守り小屋も設置され、これら学校支援の活動拠点の有効活用も課題です。

活動拠点が整備されていることを、教職員や保護者・地域住民に周知していくこと、そして、その活動拠点が活発に活用されるための方法を考えることが必要です。

例えば、池田中学校には、「まなべや」「あずま屋」「多目的室」という、複数の居場所が整備され、それぞれ学生や地域住民、PTAの活動拠点となっています。それぞれの学校支援活動にそれぞれの活動拠点が整備されていることで、打ち合わせや会議が持ちやすくなります。府内では、学校支援拠点に地域安全センターを併設するなど、拠点に複数の機能を持たせる取り組みも行われているところではあります。

また、居場所とは別に、地域住民による「畑づくり」や「菊づくり」、「緑化整備」などの活動があることも大切です。単発的な行事だけでなく、地域の特性や参加者の趣味や特技を生かした多様で恒常的な活動をつくることによって、多くの地域の方が目的を持って学校に関わる環境が作られていきます。地域住民が楽しみながら積極的に活動に参加し、結果として子どもたちのより良い育ちにつながるような、緩やかな活動のあり方を探ることが大切です。

### ④学校支援活動への教職員のかかわりについて

子どもたちのより良い育ちと学びのために、学校教育に関して、学校外の意見も聞き、保護者や地域住民と交流しながら、学校側の意見を主張できる関係や機会を積極的につくっていくことが重要です。教育コミュニティづくりは学校に対する地域の評価や信頼感の向上にもつながっていきます。しかしながら、教育コミュニティづくりに関する行事への教職員の参加状況は残念ながら多いとはいえない現状があります。

教職員の意識変革を目的に開催した「教育コミュニティづくり教職員研修会」後の「教育コミュニティづくり推進に係る教職員の意識調査」からは、教育コミュニティづくりの先述のような大切さを認識しつつも、「地域の人と話をする場面が非常に少ない」「学校は地域の誰と連携したら良いか？」など、地域とどのように関わっていったらよいかつかみかねている教職員が多い事が分かりました。また、地域とつながりをつくる役割が、学校の管理職だけになってしまっている現状も読み取ることができました。

学校・保護者・地域が、「集まって話し合い」「ともに力を合わせ」「いっしょに汗を流す」、具体的な活動への参加を通じて協働し、教職員が地域の行事に積極的に関わる中で、つながりを深め地域の方と顔見知りになることが第一歩であると考えます。



### 3、課題解決の方向性

本市の教育コミュニティづくりの現状について分析する中で、以下の5つの点について、市内の中学校区共通の課題が見えてきました。

- ① 学校支援活動への保護者の参加が少ないこと
- ② 活動の中心になる学校支援コーディネーターが固定化されていて、負担感が生じていること。  
また、新しい人材の広がりにつながっていないこと
- ③ 地域住民が居場所となる活動拠点が有効に活用されていないこと
- ④ 地域住民が学校に関わるきっかけとなるような、幅広くて持続的な活動が少ないこと
- ⑤ 地域との協働の場面に教職員の参加が少ないこと

これらの課題の解決策を探ることが、池田市の教育コミュニティづくりの推進につながると考えられます。今後、学校にさまざまな人が集い、「タテの関係」「ヨコの関係」「ナナメの関係」の中で、自力で問題解決できるような子どもの育成をめざしていくためには、学校を拠点として地域の活動を活性化させ、より良いコミュニティを形成する仕組みづくりが必要です。そこで、次のような方向性をもって、今後の活動を考えていきます。

- ① 学校支援に関わる人の横のつながりをいっそう強くしていくために、「おやじの会」による学校環境整備など、専門性を生かした取り組みを増やしていくこと
- ② 中学校区のPTAが協働して取り組めるような行事を企画すること
- ③ 地域人材に関する情報を中学校区で共有すること
- ④ 地域住民が楽しみながら参加できるような「生涯学習の場」を学校の教室を活用してつくっていくこと
- ⑤ 池田市が推進している小学校区ごとの地域分権制度「地域コミュニティ」の取り組みとの連携のあり方を探ること

# 平成23年度の実証的共同研究

## 1、共同研究のねらい

こうした課題解決の方向性を見据えながら、池田市教育コミュニティ推進連絡会では文部科学省の「社会教育による地域の教育力強化プロジェクトにおける実証的共同研究」の委託を受け、「学校と地域の総合的な活性化」をテーマに、教職員・保護者・地域住民による「総合教育支援力」の一層の充実や活性化をめざしていくことにしました。

共同研究の主な研究対象とした池田中学校では、平成18年度から地域密着型の学校づくりに着手してきました。職業体験活動のサポートから始まった「マイタウン・プロジェクト(MTP)」は様々なこどものニーズに応える集団へと発展し、現在、①ふれあい・人権 ②社会 ③文化 ④自然 ⑤学力 ⑥健康といった分野を窓口到学校行事、職場体験、進学、国際理解、校内の緑化や栽培活動、学習サポート、クラブ活動のコーチなど、子どもたちにかかわるあらゆるサポートをおこなう組織となっています。

「地域で育てる学校づくり」は「大人が学校とかかわる楽しさを感じられる場づくり」であり、子どもにとっては「学びの場」に、大人にとっては「生涯学習の場」となるような学校づくりが必要という考えのもと、池田中学校での取り組みが行われてきました。

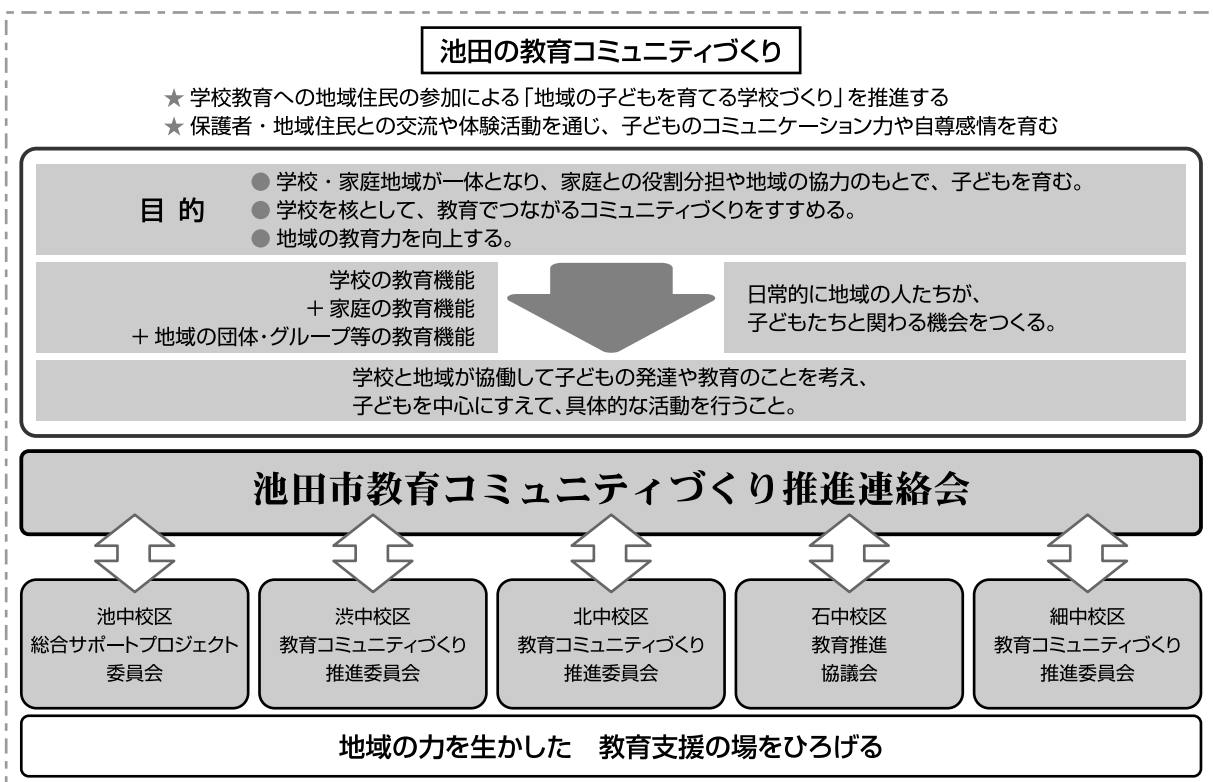
MTPは昨年度、NPOとして再スタートをきりましたが、自主的・持続的運営の方法についてはさらなる検討が求められています。

現在、池中MTPは池中校区MTPへと広がり、隣接の小学校や幼稚園、保育所との連携を深めた取り組みをおこなっています。平成22年秋からは、年に数回「池中校区MTPフェスティバル」を実施し、多くの人々が顔見知りになり、気軽に声を掛け合える関係ができています。この広がりを持続可能にするための工夫と仕掛け(学校側の情報発信、学社融合という形の公立中学校づくりなど)をさらに考える必要があります。

今回の実証的共同研究では、MTPのこれまでの活動の効果検証を行い、地域の教育力の強化につながる取り組みのあり方を探ることで、今後の全市的な教育コミュニティづくりの推進をめざすことをねらいとしました。

## 2、共同研究の実施体制

池田市では、下記の体制で、「地域のこどもは地域で育てる」を合言葉に、学校・家庭・地域が協働して、教育コミュニティづくりを推進してきました。



「池田市教育コミュニティづくり推進連絡会」は教育委員会が事務局となり、各中学校区からの代表で組織される協議会です。そのもとには、中学区校区ごとに推進委員会が設置されています。この体制を活用し、「学校と地域の総合的な活性化」を図る本共同研究を実施しました。委託先は「池田市教育コミュニティづくり推進連絡会」とし、学校と地域の共助体制によるコミュニティ・ソリューションの核となる学校のモデル開発に取り組みました。

### 3、共同研究の実施内容と方法

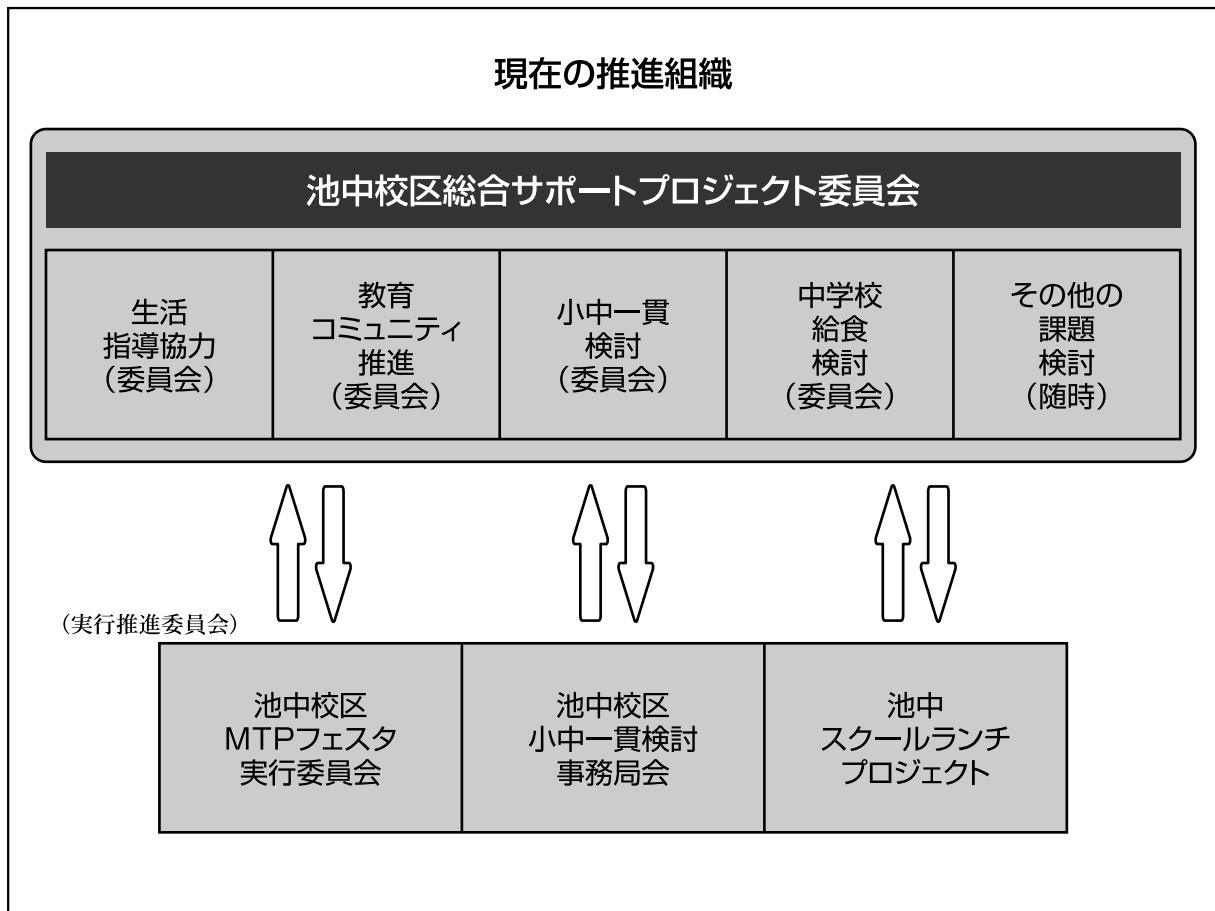
本市では「教育コミュニティづくり推進連絡会」のもと、全中学校区において「教育コミュニティづくり推進委員会」が組織され、校区の事情にあった独自の取り組みが展開されています。特に池田中学校区の場合、NPO化されたMTPが中心となり、教育コミュニティづくりが進められている。NPO化したことで、池田中学校のみならず、池田中学校区、ひいては全市内での活動が可能になったものと認識しています。

同校区では、昨年度までの「池中校区教育コミュニティづくり推進委員会」と「生活指導協力委員会」を合わせ、今年度は『総合サポートプロジェクト委員会』を発足しました。

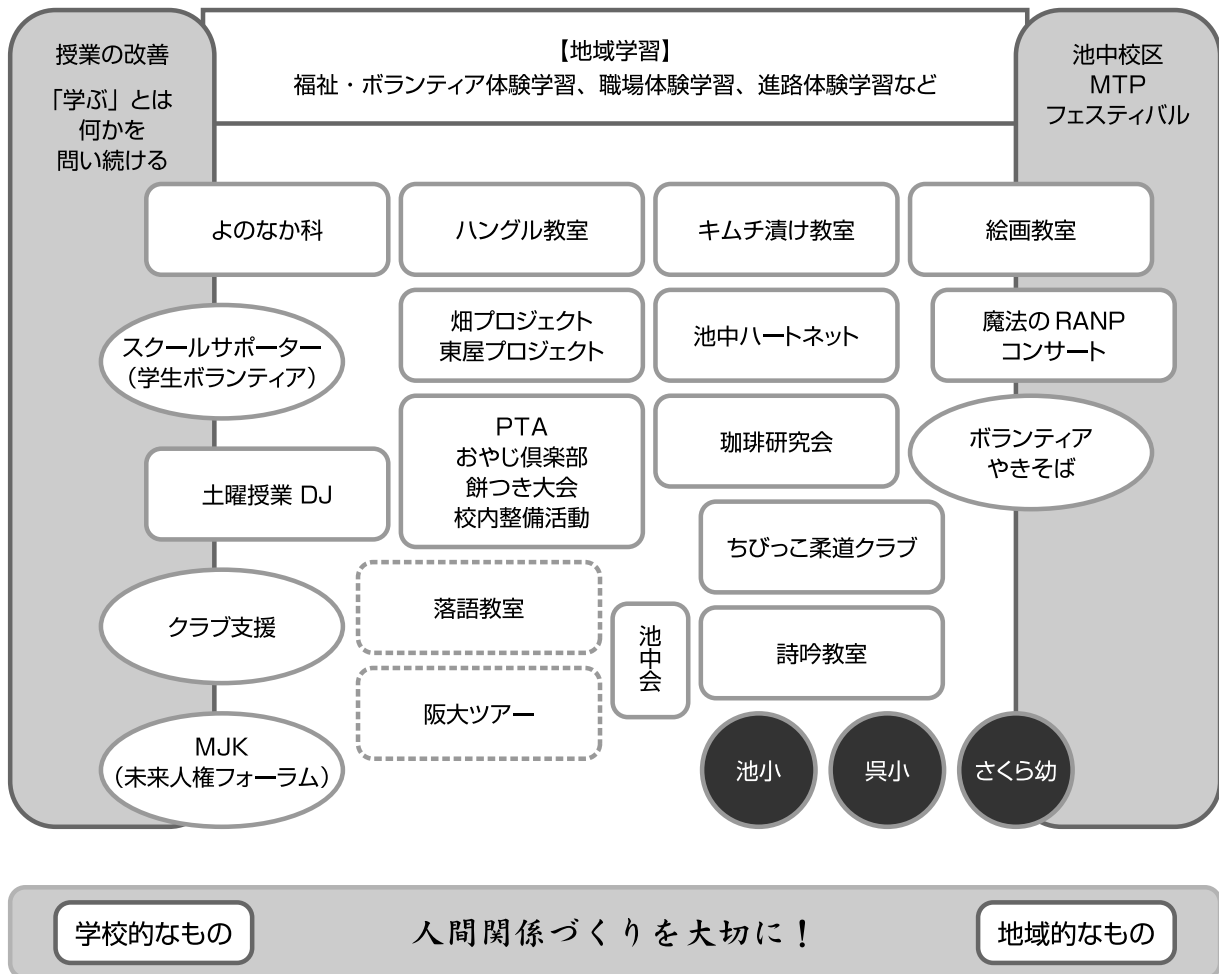
本委員会は、学校園関係者、保護者、地域住民(青少年健全育成団体、保護司会、MTP等)で構成され、生活指導、教育コミュニティづくり、小中一貫教育、中学校給食といった今日的な教育課題について学期に一度、協議をおこなっています。

また、池中校区MTPフェスタ実行委員会(学校園関係者・PTA・MTP・協力団体)、池中校区小中一貫検討事務局会(学校園関係者)、池中スクールランチプロジェクト(教員・生徒会・保護者・地域住民・市教委)といった3つの実行推進組織とも連動し、それぞれの課題について適宜、熟議をおこなっています。そこで出された意見は、『総合サポートプロジェクト委員会』でも話題にされます。

池中校区MTPフェスティバルでは、幼稚園・小学校・中学校が連携し、吹奏楽演奏や出店等を行い、地域住民が集う新たなコミュニティの場が形成されています。また、中学校ではDJ(土曜授業)、東屋畑プロジェクト、ハングル講座、絵画教室などに保護者や地域住民の時間と労力を提供してもらっています。



## MTPの全体像



共同研究の実施にあたっては、上記のMTP活動を継続・拡充します。また、「学校と地域を融合した新たな学校づくり」をめざし、学識者のサポートを受けながら、住民意識調査アンケートなどによって地域の意見・要望を集約し、そこから抽出した課題の解決に向けた取り組み(広報活動・成果報告シンポジウム等)を企画、実施しました。

成果報告シンポジウム後も、参加者へのアンケートによる効果検証を行い、MTPの実践プログラムの効果検証をおこないました。さらに、地域の教育力強化に対し成果があるものについては、他中学校区の取り組みに付加できるよう、情報提供に努めました。

成果報告シンポジウムでは、池田中学校区MTPの実践報告をおこないました。また、学識者をまじえたパネルディスカッションを実施するなどして、学社融合の新しい型の公立中学校づくりの在り方を探りました。

加えて、校長・教職員、行政関係者、コーディネーター、保護者、地域住民などのマネジメント力・コーディネーター力の向上のため、教育フォーラムや教育シンポジウムの開催、池田市教育コミュニティづくり推進連絡会での討議をおこないました。

さらに、広報活動として、「MTP 通信」を池田中学校区全戸(1万2000戸)に配布しました。

平成23年度  
文部科学省「社会教育による地域の教育力強化プロジェクト」における実証的共同研究スケジュール

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
会議等	MTPフェスティバル 実行委員会	学校支援活動に関する 教員・保護者・地域住民 意識調査アンケート内容 検討会議（関西大学社会 学部連携）	池中校区 総合サポート会議	学校と地域の総合的な 活性化シンポジウム実 行委員会  MTPフェスティバル実 行委員会	学校と地域の総合的な 活性化シンポジウム実 行委員会  MTPフェスティバル実 行委員会	
調査研究活動						
研修会行事等						

MTP活動の拡充						
東屋と畑・花壇の充実、池中MTPの部屋の活用、朝学習の充実、子ども・保護者・地域住民に対する意識調査、ポスター、啓発リーフレット、のぼり土曜授業、畑プロジェクト、絵画教室、ハンゲル教室、キムチ付け教室、着付け教室、裁縫クラブ、造園教室、柔道教室、おもしろ実験教室、MTPカフェ、おやじくらぶ、池中会、スクールサポーター、アシスタントティーチャー、部活指導						
アンケート作成・実施			DVD・成果報告書作成			
アンケート回収・集計						

よのなか科・MJJKの実施						
池中公開授業 研究会 11月8日				池田教育 フォーラム	池中公開授業 研究会	教育コミュ ニティづくり 推進研修会
MTP フェスティバル 11月5日				共同研究 プレ報告会	学校と地域の 総合的な活性化 シンポジウム 2月26日	MTP フェスティバル 3月11日
融合フォーラム 参加		文部科学省 担当者との 打ち合わせ 12月2日		先進地域への 視察 1月20日 ～23日		
教育コミュニティづくり推進に係る研修会						

強化プロジェクトのねらい

テーマ「学校と地域の総合的な活性化」

- ・池田中学校区マイタウン・プロジェクト(MTP)の効果を検証する。
- ・現在の池田市内中学校区教育コミュニティづくりの課題を探り、その解決のための方策を探る。
- ・全市的な教育コミュニティづくりのモデル開発をおこなう。

学校と地域を融合した  
新たな学校づくり  
～ 池田中学校区MTPの実践 ～

## 生徒は街へ、人々は学校へ ～ 池中校区MTPのこだわり～

池田市立池田中学校長 笠井賢治

### 小さくとも世界に誇れる池田

市制施行 72年目 面積 約22km<sup>2</sup>  
人口 約10万1千人 大阪のベッドタウン  
市立学校 11小学校・5中学校  
国立附属校 小・中・高各1校  
私立高校 1校  
府立高校 4校  
池中は市内で一番古い中学校(生徒数512名)

はじめに、ごく標準的な公立中学校である本校が、公立校ならではの特性を生かし、地域の皆さんの力をお借りしながら、学校づくりを進めている様子を紹介させていただきます。

池田市は、大阪キタの中心である梅田から、阪急電車で15分ほど北に行ったところにある、人口十万と少しの文教地区です。地域の教育熱は高く、古くから「おらが村さの学校」という意識で、学校教育にも大変協力的です。

とりわけ小学校は130年を超える歴史を持つ学校も多く、祖父母・父母・兄弟姉妹と何世代にもわたって同じ学校の卒業生というファミリーも少なくありません。因みに、本校は、市内5中学校の中で最も古い歴史を持つ、生徒数512名の中規模中学校です。

### 池中のMTP 「マイタウン・プロジェクト」って何？

- ◆2007年度ぐらいから本格化した、外部人材による池中教育支援活動の総称
- ◆学校からの呼びかけに応じてくれた地域のボランティア(地域住民・PTA・保護者OB・卒業生・大学生・一般応募者ら)によって構成
- ◆活動費は学校支援地域本部事業より捻出
- ◆現在のところ、プロデュースの主体は「学校」。  
ただし、事務局は2010年度よりNPOに。

まずは、最近新聞や教育雑誌によく取り上げていただいています本校の「MTP(マイタウン・プロジェクト)」という取り組みについて説明いたします。これは4・5年前から、学校からの呼びかけに応じてくださった、地域の方々・卒業生・保護者OB、またその知人の方々による、本校に対する「学校支援活動」の総称です。活動の経費は、主に、「学校支援地域本部事業」の中で運用しています。

ここで、まず確認させていただきたいのは、「すべては学校からの呼びかけから始まった」ということです。その基本姿勢は現在も変わっておりません。

(故あって、MTP事務局自体は、昨年度からNPOとして独立いたしました。)

池田市は以前から小学校を中心に、総合的な学習、あるいは「もちつき」や「昔遊び伝承会」の指導者として、地域住民の方々にたくさん学校に入っていただいております。昨今、全国的に実施されるようになってきた土曜授業も、本市北部のある小学校では28年も前から行われていたという実績があります。また校区によっては、地元のお宮さんの祭りへの参加を目指して、地域をあげて子育てをしていくという伝統風土もあり、学校と地域とが極めて協働しやすい環境であったことは事実です。

### 池中にMTPが必要だった理由

- ◆家庭の教育力が低下する中、地域の教育力の活性化(復活)が急務となった
- ◆池田市は昔から地域協働が盛んだったが、池中校区は人口流入も激しく、他校区と比べて地域の教育力が拡散的だった
- ◆そこで、従前の枠組みとは違う「学校側ニーズ」により「地域の再編」を試みた
- ◆結果的に「地域側ニーズ」との双方向性が有効に機能しだした

とはいうものの、ここ数年は本市でも少子高齢化が進む一方で、特に本校区では、大型マンションの建設が相次ぎ、近隣都市からの若い子育て世代の大量流入が加速してきました。それに伴い、学校と協働できるいわゆる「地域」と呼べる実態が曖昧になってきたのです。

そこで、我々の側から「ちょっと学校に力を貸してください」という呼びかけを街中で行い(実際はポスターを貼りまくったのですが)、支援ボランティアを募っていきましました。こうして集まってくださった方とともに、やれることから始めていったというのが、黎明期の「池中MTP」です。

私自身が、MTP誕生の最も大きな意義として認識しているのは、「学校が自分たちのニーズに見合う形で地域を再編した」という点です。

とにかく多くの地域の方々に池中生を知ってもらおう。そのために、職場体験も校区内に限ろう、土曜授業を開いて地域の人々に日常的に学校に来てもらおう、それならいっそのこと地域の人のために畑も作っちゃおう、語学教室も開こう…。

一人でも多くの方々に学校へ来てもらって、池中生の顔を覚えていただく。10年前、このうえなく不幸な児童殺傷事件の発生当該市である池田にあって、「知らない大人に近づくな」と教えるのではなく、「知

っている大人を一人でも増やそう」、「信頼できる大人ともつなごう」と訴え、「人とのつながりを前提とする池田ならではの教育風土」を存分に活用しようとしたわけです。

こうして学校にきてくださった人々は、以前から学校とつながりのあった人や、既存の関係機関の代表の方というよりは、まったく別の目的のもとに集まってくださった、新しい顔ぶれがほとんどでした。私が「地域の再編」と申し上げているのはそういう意味です。

平成23年度 池田市立池田中学校 教育基本方針 教育目標
誰もが排除されずに真剣に切磋琢磨できる環境で「自尊感情」を醸成し、豊かな人間関係の中で自己実現を目指す生徒を育成する
↓
誰もが本気で磨き合える学校づくり
教育活動(指導)方針
①生徒の声をよく聞こう、生徒の顔を見つめよう。 ②生徒の「今(現実)」からスタートしよう。 ③学校として伝えるべき価値をしっかりと伝えよう。

ここで、本校の教育目標をご覧ください。  
公立学校の教育目標はどこも似たような文言が多いようですが、私は昨年度の本校着任時に思い切った改訂をさせていただきました。

公立義務教育学校の使命として、とにかく「排除の論理」を払しょくすること、学力についても学校としてのアベレージの向上を目指すのではなく、一人ひとりの自己実現を支援する、とにかく目の前のAさんB君がどれだけ成長できるか、それに徹したいと考えています。

教員の合言葉としての「教育活動(指導)方針」を、次のように明示しました。

- ①生徒の声をよく聞こう、生徒の顔を見つめよう ～物言わぬ生徒の思いもつかみたい。
- ②生徒の「今(現実)」からスタートしよう～以前は、異装してきた生徒に「なんやその制服。家へ帰って出直してこい。」と怒鳴っていましたが、今は「なんでそんなカッコしてきたんや」から指導を始めます。
- ③学校として伝えるべき価値はしっかり伝えよう～池中は「なんでもあり」ではありません。

でも残念なことに、これを学校の教職員だけで完遂していくのは、現行の学校システムでは極めて困難です。だからこそ地域との協働が不可欠の条件となってくるのです。そこで、MTPを柱とする地域協働についても、次のように位置づけてみました。

簡潔にいうならば、「池中MTP」を「池中校区MTP」に広げていこうということ。そのために、こざれいなタテマエ論ではなく、お互いにとって切実な課題の解決を目指して、「具体的・日常的・継続的」につながっていこうということ、関係の皆さんに強く訴え続けています。

「タテ・ヨコ・ナナメのやわらかネット」の構築 池中MTPを池中校区MTPに
〈基本コンセプト〉みんなが本気になる「切実な課題感」で、 「具体的・日常的・継続的」につながろう
〈タテ〉各校園共通の「切実な課題(例えば特別支援教育の協働等)を軸とした地域密着型保幼小中(高)一貫教育(中学校をハブ校とする連携型)のシステム
〈ヨコ〉学校・家庭・地域の協働による、生徒の自己実現支援のシステム(これまでの池中マイタウン・プロジェクト)
〈ナナメ〉学校・地域の施設・人材・機能の双方向活用によって再編される直接の利害関係のない人間関係
〈やわらか〉位置づけは明快に、運用は柔軟に

〈タテ〉本年度より池田市では小中一貫教育の研究を、全中学校区で展開しています。

市の計画では、本校区は施設一体型ではなく、いわゆる「連携型」の一貫を目指すことになっていますが、それについても、ただ漫然と形だけでつながるのではなく、切実な課題感、たとえば「この子が小学校の時は、どんな体制で指導していたのか?」「この保護者にどんな物言いしたらわかってもらえるのか?」というように、「その情報を共有しないと、自分たちの仕事がちもさちも進まない」、そういう内容で、つながりをつくっていきたいと考えています。

結果、今年度は、うちの土曜授業に、毎回、校区の小学校の先生方が顔を出してくださるようになりました。

〈ヨコ〉は言うまでもありません。伝家の宝刀MTPの拡充です。

そして、タテ・ヨコのシステム構築の結果として生まれてくるのが、「ナナメの関係」です。「直の関係」である先生や親の言うことは素直に聞けなくても、近所のおばちゃんに言われるとすっと納得できる。そんな関係です。実は、これによって、学校は救われていくのです。

本校に視察に来られる多くの行政系の方々が、口をそろえて地元の学校のガードの固さをお嘆きになります。地域協働の部分だけを取り上げて外からメリット云々をおっしゃっても、学校はなかなか開かないと思います。今学校が抱えている課題を解消するのに、何が一番有効かを「学校の側から考えていけば」、自ずと地域協働の必然性が浮かび上がってくるはずですよ。

本校でも、本気で地域協働を学校づくりに反映していこうとするなら、MTPの部分だけを見ていては困難だと思っています。総合的な視点から「タテ・ヨコ・ナナメ」がシンプルに位置付けられ、かつ、柔



軟に運営されていくことが必要だと考えます。

ゆえに、これらを総括する組織として、これも極めて緩めの形式的編成ではありますが、学校関係者・保護者・地域・関係機関の代表者等約55名が一堂に会し、「池中校区総合サポートプロジェクト」という委員会を立ち上げています。

### 生徒は街へ

福祉体験学習・職場体験学習  
進路体験学習・人権シティウォーク  
出前演奏・ボランティア出店…etc.

### 人々は学校へ～これが本校の最大の特徴

畑プロジェクト・絵画教室・ハングル講座  
キムチ漬け教室・着付教室・裁縫クラブ・造園  
柔道教室・おもしろ実験教室・MTPカフェ  
おやじ倶楽部・池中会・スクールサポーター  
アシスタントティーチャー・部活指導…etc.

池中では、子どもたちを育てる「生きた人間によるネットワーク」を作ろうと考え、まず街へ子どもたちを出しました。一方で、地域の人々に学校へ足を運んでもらうために、多種多様な活動を準備しました。畑プロジェクト・絵画教室・ハングル講座…、実は、これこそが本校の最大の特徴なのですが、地域の人々は学校のお手伝いをするためにだけ池中にやってくるではありません。野菜を作りたい、絵を描きたい、外国語を習いたい等々、「自分たちの楽しみ」を求めて、やってくるのです。

以上、私たちのこだわりの部分をお伝えして、挨拶にかえさせていただきます。

改めて関係の皆さまに心より感謝申し上げます。有難うございました。

## 池田中学校区小中一貫構想イメージ

### <「切実な課題感」で「日常的・継続的・具体的」につなごう>

#### 池中校区小中一貫検討(総合サポートプロジェクト)委員会

#### 池中校区小中一貫検討事務局会 (校園長/教頭/副園長/首席/連携担当教員)

「目指す子ども像」原案作成  
具体的取組の原案作成・調整

	教育課程連結			特別支援教育協働			自学習支援			学校事務共同			地域サークル活動 (池中校区MTP)		
	(内容)	(組織)	(メンバー)	(内容)	(組織)	(メンバー)	(内容)	(組織)	(メンバー)	(内容)	(組織)	(メンバー)	(内容)	(組織)	(メンバー)
高	中	(教科連結) 9年間を見通した各教科カリキュラムの連続性の明示	市教委ベータシビックカリキュラムワーキングチーム	担当教員・指導主事	支援を要する子どもの課題分析・支援法検討	サポート会議・ケース会議	各校教員・スクールソーシャルワーカー・サポーター	学習相談等	各校教員	学校事務機能の強化と学校経営への主体的参画、学校間連携支援	池中校区学校事務グループ	池中校区小・中学校事務職員	学校施設を活用した校区住民対象のサークル活動	絵画教室・ハングル講座・キムチ教室・着付け教室・畑プロジェクト・柔道クラブ	MTPメンバー・地域住民・児童生徒・保護者・各校教員・ボランティア
小		(地域学習) 地域をフィールドとした調べ学習・体験学習・「よのなか科」的学習等	総合的な学習・特別活動担当	各校教員・地域住民・保護者		支援情報の共有	子ども情報共有会・打合せ						各校教員・スクールソーシャルワーカー	DJ・DJB・ETC	
幼・保	行事連携) 宿泊行事	行事検討分掌	各校教員	学校における支援の在り方の研究と情報共有	合同研修会(含校区人研)	各校教員									

\*太字は、既に連携して取り組んでいるもの

## 池田中学校の教育の理念

### 1、マイタウン・プロジェクト(いけだNPO)と池中教育の関係

2007年度に立ち上がった池田中学校の学校応援団、池中マイタウン・プロジェクトは、2010年度には池田市公益活動団体(いけだNPO)になりました。正式名称は「マイタウン・プロジェクト」。活動の目的は、「子どもが幸せになる為の活動をおこなった結果、大人も幸せになれる地域社会を築くこと」です。池田中学校を良くしようと始まった池中MTPの活動が、池田市全体のことを考えて活動するNPOになったのです。「子どもたちのためにいいことなら何でもやろう」という池田中学校の学校づくり(学校改革)の理念をもとに、組織がどんどん発展し、「みんなが楽しく暮らせるまちづくり」をめざす団体へと進化しています。

#### ◇ 池田中学校区 MTP と池田中学校 MTP の関係



次ページで、マイタウン・プロジェクトの基本的な考え方のもとになった池田中学校の教育の在り方について、池中ガイドから抜粋したものを紹介します。

2. 池田中学校はこう考えています ～学力観と人間関係づくりについて～

保護者のみなさまへ  
お子様が学校で使うとき以外は  
保護者の手の届くところで  
保管してください



～池中のすべてがわかる本～  
**2012 池中ガイド**  
☎ 751-4187

名前 \_\_\_\_\_

**池田中学校は、こう考えています**

**人と人との“つながり”が必要です!**

教職員と生徒の共同作業に、家庭と地域の協力が支えとなり、  
【池田中学校の教育の形】が作られていきます。

池田中学校の学校教育目標は、次のとおりです。

誰もが排除されることなく、  
真剣に切磋琢磨できる環境で「自尊感情」を育み、  
豊かな人間関係の中で自己実現を目指していく生徒を育てる

簡単にいえば、「誰もが本気で磨き合える学校づくり」を目指しています。

そして、その目標を実現するために

- ① すべての教育活動を通して、豊かな世界観としなやかな想像力を育てます。
- ② 人との信頼関係の中で自分を肯定しながら、自ら学び続けようとする意欲を育てます。
- ③ 人や環境とのよりよい関係について深く考え、人を信頼し、自分や他人を大切にできる姿勢を育てます。

- 2 -

2. 学力について

池田中学校では「学力」を、大きくとらえて『人間関係をつくる力』であるとしてとらえています。下図のような考えで、教育活動を行っています。

**池田中学校の学力のとらえ方**

① 狭い意味での学力観…教科テストなどで判断される知識を中心とした学力

(a) 【基礎・基本】＝情報収集力…「息をするような学力」  
人間が生きていくには呼吸することが必要のように、生きていくために、最低限身につけて欲しい知識や技術のことで、一般には「読み、書き、そろばん」と呼ばれている学力のことです。TIMSS型学力と言います。

(b) 【応用】＝情報編集力…「物事をとらえ、考えまとめ、相手に伝える力」  
学校で行われるテストの正解は、ほとんどの場合で一つしかありませんが、社会で直面する問題には、たくさんの正解が存在することがあります。情報編集力とは、基礎・基本で学んだことを元に、物事を的確にとらえ、考えまとめ、相手に伝える学力のことで、PISA型学力と言います。

② 広い意味での学力観…人間関係をつくる力

池田中学校では、「人間関係を大切に、人とのつながりをつくれる力」を広い意味で学力ととらえています。安心して生活できる学校、楽しく生き生きと過ごせる空間を作り出す力、人と人とのつながりをつくれる力、これこそが「社会で生きていく力」だと考えます。このように池田中学校では「人間関係をつくる力」を最も大切な学力だと考えています。

- 14 -

6. 人間関係づくりについて

生徒と教職員・生徒と生徒の人間関係づくりが重要であることは、多くの学校で言われていますが、本校では、人間関係づくりこそが一番大切な学力だと考えて、積極的に学校生活に取り入れています。

どれだけ教師が授業の工夫をしても、どれだけ学校が面白い取り組みをしても、学校内の人間関係ができていなければ、うまくいきません。

全ての生徒が「夢」と「愛」を持って生活し、将来の自分を豊かにするための学力を身につけられる中学校にすることを目標にしていますので、教職員が率先して、下記の人間関係づくりと活動を行っています。

- 生徒の声を聴こう。
- 生徒を信頼し、尊敬しよう。
- チャレンジ精神と修正主義を大切にしよう。
- チームとして動く。

- ① 生徒の声を聴こう  
「生徒の声を聴こう」これが本校教職員のキャッチフレーズです。この取り組みによって、生徒との愚談が増えました。一人ひとりと愚談してみると、「そんなことを思っていたのか」とか、困っていることや悩んでいることなど、今まで見えなかったことがたくさん見えてきました。今は各学年とも学期に最低1回は必ず愚談をしています。それだけではなく、日常的に、たとえば掃除の時間や休み時間など、生徒とふれあう時は「生徒の声を聴く」姿勢を大切にしています。
- ② 生徒を信頼し、尊敬しよう  
教職員が生徒と人間関係をつくるためには、「生徒を信頼し、尊敬する」という、教職員の姿勢が大切です。生徒を買いかぶらず、見くびらず、生徒と同じ目線（上から目線でない）で、謙虚な姿勢で接することが必要だと考えます。これらは、不登校生徒の減少や、いじめの解消、人権感覚など、『安心して学べる環境づくり』を進めるために、なくてはならない姿勢だと考えています。
- ③ チャレンジ精神と修正主義を大切にしよう ～生徒のために良いことなら、何でもやってみよう～  
生徒のためになることは、安全性を確認した上で、「まず、やってみよう！」とするチャレンジ精神を持つことと、活動をしながらか「まずい所は、そのつど直していく」柔軟な対応をすることは、移り変わりの激しい現代の社会には、必要な要素です。生徒の日常生活を、「まず、生徒ありき」の精神で、臨機応変な対応を心掛けています。
- ④ チームとして動く  
人間が一人ではできないことには限界がありますので、本校では、教職員が一人ひとりバラバラに活動せず、教科教育・生徒指導・課外活動の他、学校生活に関わることをすべてを、教職員がチームを組んで活動しています。たくさんの方が生徒を見ることで、一人では気付かなかった問題などを早期に発見し、チーム全体で改善に取り組んでいます。

- 17 -

# マイタウン・プロジェクト(MTP)について

## 1、マイタウン・プロジェクトとは

ここでは、池中マイタウン・プロジェクト(池中MTP)を紹介します。

### ●池中MTPとは、こういった取り組みですか？

池中MTPとは、「子どもたちが将来の夢を育むこと」に、学校・家庭・地域の多くの人々が一緒になって応援していこうという取り組みです。地域密着型の学校づくりとも言えます。

池中では、地域の人々の協力が得られるように、「力を少し貸してください」とさまざまな機会に呼びかけています。その呼びかけに応じてくれた人々が、MTPスタッフとして様々な場面で力を発揮してくれています。現在、MTPスタッフは約300名(2009年4月末現在)。今後、人のつながりがさらに広がり、取り組みの可能性が無限に広がるのではと期待しています。

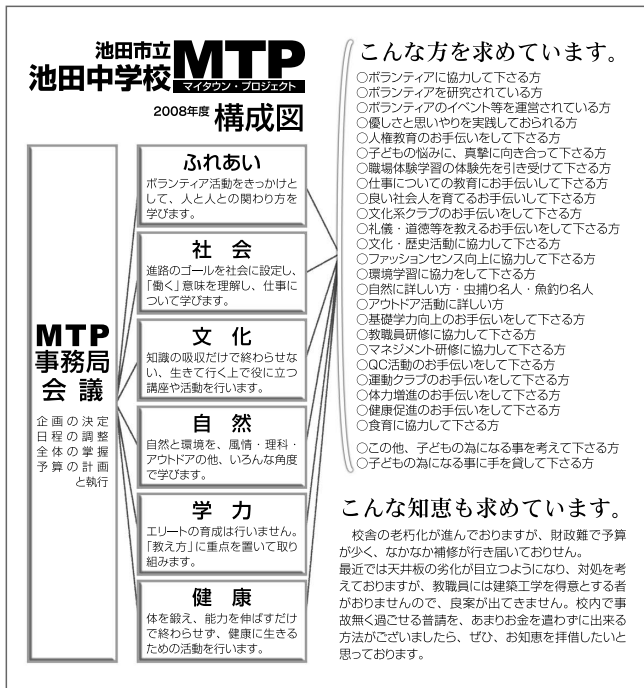
### ●具体的な取り組みは？

取り組みは大きく分けて、「ふれあい・人権」、「社会」、「文化」、「自然」、「学力」、「健康」といった6つの分野があります。

- ① 「ふれあい・人権」の分野では、地域の祭りや行事などでボランティア活動をおこなっています。
- ② 「社会」の分野では、子どもたちが、働くことの意味や将来の進路を考える学習に、地域の方々の協力をお願いした活動をしています。職場体験学習や福祉・ボランティア体験学習や進路体験学習の取り組みです。
- ③ 「文化」の分野では、プロの落語家さんに来ていただいて、定期的に「落語教室」を開いています。国際理解教育の一環として「ハングル教室」も開いています。
- ④ 「自然」の分野では、地域の方の協力で畑を借りて大豆の栽培をしています。校内の環境整備や緑化にも協力いただいています。
- ⑤ 「学力」の分野では、土曜授業(DJ)を始めました(後述)。学力向上の対策として授業の工夫につながる授業研究会も行っています。
- ⑥ 「健康」の分野では、部活動の外部コーチとして、多くの方に協力いただいています。



呼びかけに使用したポスター



理解を求めめるために作った構成図(左)と、入会申込書(下)

申込日 平成 年 月 日		池田市立 池田中学校 MTP 入会 申込書	
フリガナ		池田中学校 MTP	
氏名		マイタウン・プロジェクト	
住所 〒 -		生年月日 西暦 年 月 日 歳	
電話		携帯電話	
Eメールアドレス		所属部課までご記入ください	
ご職業		勤務先	
MTPで取り組みたい事項		所属部課までご記入ください	

\*ご記入いただきました個人情報は、池田市立池田中学校マイタウン・プロジェクトの運営以外には利用いたしません。

●取り組みを行うことになったきっかけは？

直接のきっかけは、2007年度の2年生が取り組んだ職場体験学習です。以前は、職場体験先として、校区に限らず、池田市内全域、箕面市や川西市にも出かけて実施していました。それを、池田中学校の校区に限定した取り組みに変えたのです。

これまでも「職場体験は地域の人に協力を願って、校区でやりたい。」と考えていました。「もっと子どもたちに地域を意識させたい。」「子どもたちが地域の大人と顔見知りになってほしい。」という思いを持っていたのです。

ただ、今までのやり方を変えると、体験先を決めるのに子どもたちの希望第一優先でやってきたことを変えることになり、170人分の体験先が確保できるかという心配もありました。

校区には、多くの池中卒業生の方々がいらっしゃいます。保護者の方にも卒業生の方が多くいらっしゃいます。私たち教職員がいろいろな行事でその方々と顔見知りになり、地域の人とのつながりができてきました。そこからやっと「よし、やってみよう」と踏み切ることができました。

実際に協力をお願いにうかがいますと、思っていた以上に好評で、多くの事業所や公共施設が協力していただくことになりました。生徒たちも、この学習を通して地域の人と顔見知りになり、あいさつをするようになったのです。予想以上の成果があったと思っています。

●取り組みのねらいは？

取り組みの最大のねらいは、やはり『子どもたちの学力向上』です。そのために地域の人々とともに学校を創っていくことはすごく当然のことだと考えています。

MTPの取り組みを行うことで、多くの方に関わっていただくようになりました。学習支援、部活動支援、生活面での支援、心のサポートなど様々な面で、広く対応できるようになってきています。

『地域密着』という新しい形の公立中学校をいっしょに創っていこうという人が増えています。

もうひとつのねらいは、学校を中心として、人と人とのつながり、すなわち『人のネットワークを地域につくる』ということです。

たとえば、校区には新しいマンションが多くできていますが、新しく池田市にいられた人々が顔見知りになるきっかけに、池中MTPがなればいいなと思っています。

地域の多くの人々が顔見知りになることは、子どもたちの成長に必ずプラスになりますし、何と言っても安全、安心な地域ができると思うのです。

●力を入れるコツ

「学校に少し力を貸してください」と呼びかけるとき、その前に、学校として、「～～をするから手伝ってください」というような具体的な内容をつくっておくことが大切だと思います。たとえば、「DJ(土曜授業)をやります」とか「阪大見学ツアーをします」とか「部活動の支援をして下さい」とかです。地域の人々も、何を手伝ったらいいのかわりやすくなり、声もかけやすくなると思うのです。

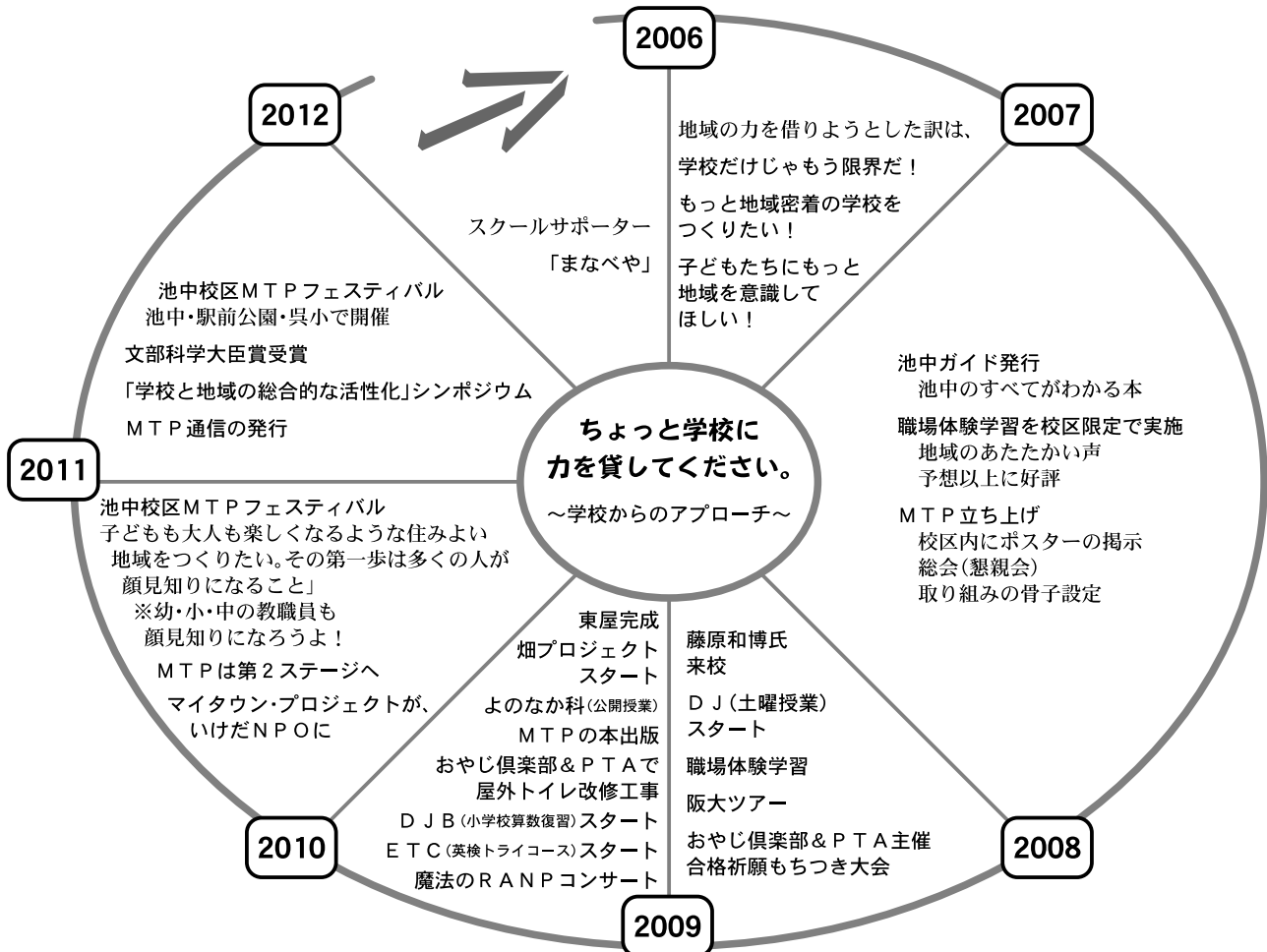
もし、何も準備せず、「力を貸してください」と言うだけでは、スタッフは集まるでしょうが、何をしたいのかわからず、悪くいけば、不満だけが残るような気がします。

## MTPのあゆみ

### 1、池中MTPから池中校区MTPへ ～第2ステージへ～

2005年4月、横山泰介先生が池田中学校長に就任されました。「生徒の声を、よう聴いてやってください。それだけでいいですから。」これが教職員に向けた校長の第一声でした。このときから池田中学校の学校づくり(学校改革)がスタートしたのです。この学校づくりの流れが根底にあって、池中MTPを立ち上げ、いけだNPOに登録する団体を組織するまでになったのです。

2005年度からの年ごとの主な出来事を一覧表にまとめました。



池中の学校づくりの推進に大きなパワーを与えていただいたのが、2008年夏、藤原和博さんが大阪府教育委員会特別顧問として本校に来校されたことです。提言いただいたことも刺激的だったのですが、なによりも取り組みのスピード感の違いに感銘を受けました。このことをきっかけに「DJ(土曜授業)」や「よのなか科」がはじまり、「やればできるんだなあ」と思いつつ、地域の人々を巻き込んだ学校づくりが進みました。

2010年度には笠井賢治先生が新しい校長になりました。池中の学校づくりは、保幼小中の連携を密にした池中校区教育コミュニティづくりへと発展し、MTPは第2ステージにはいりました。地域、教育関係の方々に集まっていた池田校区総合サポートプロジェクト委員会が発足しました。DJに小学校の先生が参加してくれたり、保幼小中の教職員、PTA、MTPスタッフ、地域の人々など、様々な人々が協力して池中校区MTPフェスティバルを開催することができました。いろいろな企画を行うたびに準備で人々が集まり、当日は一緒になって運営をし、終われば懇親会をする…。このことで顔見知りが増え、人々の交流が盛んになってきています。何より学校の考えていることがより良く理解されるようになったことが大きい成果です。

今後は子どもたちと地域の人々がもっと顔見知りになることができればよいと考えています。たとえば、MTPフェスティバルの企画・運営に子どもたちにも入ってもらおう。そうすることで、自分たちの地域をもっと意識してくれるようになるのではないかと考えています。

## MTPの未来

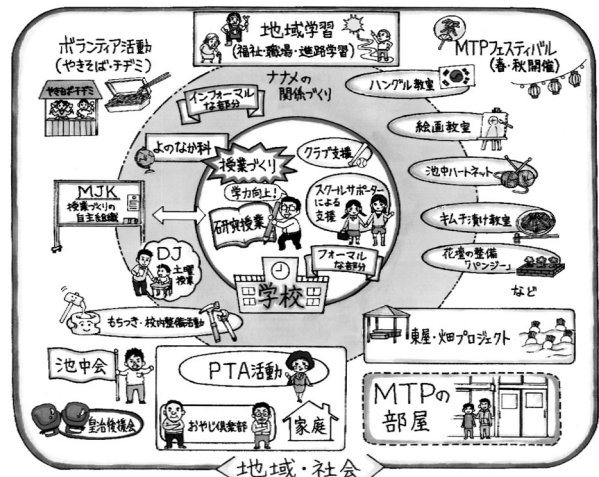
### 1、MTPの目指すもの

「学校を核にまちづくり」～学校にカーテンはいらぬい～

地域のコミュニティのつながりが薄れていくなかで、学校を中心に地域コミュニティの再生、そして学校を核としたまちづくりにつながる活動をおこないます。地域と協働し、さまざまな活動をしかけていくことによって、学校に行き来する人が多くなり、子どもたちの豊かな成長にもつながります。そのためには、学校のようなすが地域からよく見えるようにつとめ、地域の人々が安心して入ってもらえるような学校づくりをすすめていきます。

#### ◇「MTPの部屋」

池中の空き教室を、地域の人々が集える部屋にしようとしています。秋津コミュニティに学びました。日常的に地域の人々が集まり、様々な活動が行われる地域本部となることでしょう。2月に始まった珈琲研究会はここで行われています。



### 1、立ち上げから持続可能な取り組みにする方法

～学校と地域が融合する新しい学校づくり～

#### ●立ち上げ

◇学校からのアプローチ 「ちょっと学校に力を貸してください」

その前に…、教育理念の確認を！

◆「子ども中心、人間関係づくり中心という人権を柱とした穏やかな学校づくりをしよう」

◆学校の様子を等身大で理解してもらおう努力を重ねる。(池中ガイドの発行、情報発信など)

◇地域からのアプローチ 「子どもたちのためなら何でもするよ」

◆学校の応援団(MTP)を組織する。

活動目的に賛同するスタッフを募集して、「形」をつくるのが大切だ！

◆DJやフェスティバルなどを「無理なく楽しく」続けることが大切だ。

◇ポイント

◎具体的な活動の呼びかけは教師から行う。

◎コーディネートは教師と地域スタッフとの共同で行う。【チームとしてやっていく】

#### ●持続可能にするために ～お互いが得をするWIN&WINの関係で実行する～

◇学校からのアプローチ

◆教師も地域の人と顔馴染みになろう。教師は子どもと大人の学びのつなぎ役になろう。

◇地域からのアプローチ

◆イベントや日常の活動から顔見知りが増え、MTPは「自分たちも楽しむ集団」へ進化する。

◇ポイント

◎人が集まる企画を年中行事のように続けて行く。(顔見知りになり、つながりができていく)

◎そのためには、情報発信(広報活動)の充実は、とても大切だ。

#### ●未来予想図 ～MTPの可能性～

◇中学校区全体で「地域の子どもは地域で育てる」という意識が育まれる。

◇すべての人々の人権を柱とした学校づくり・まちづくりの気運が高まる。

◇活動を通じて地域のつながりが強まり、社会が元気になる。

## 平成23年度の活動一覧

4月	2	土	第2回池中校区MTPフェスティバル MTP総会
	9	土	絵画教室
	15	金	さくら幼稚園 遠足で池中へ
	16	土	池中ハートネット 絵画教室
	23	土	絵画教室
	24	日	ちびっこ柔道教室(池中柔道場)
	28	木	MJK①
	29	金	春団治まつり(MTPボランティア)
	30	土	春団治まつり(MTPボランティア)
	5月	14	土
21		土	池中ハートネット 絵画教室 DJB②
22		日	ちびっこ柔道教室(池中柔道場)
6月	4	土	絵画教室 DJB③
	11	土	絵画教室 DJB④ 池小地域参観
	18	土	池中ハートネット 絵画教室 DJB⑤
	24	金	MJK③ 池中校区サポートプロジェクト発足会
	25	土	絵画教室
	26	日	ちびっこ柔道教室
7月	1	金	呉服保育所納涼祭
	2	土	絵画教室 DJB⑥ 池小平和のつどい
	9	土	絵画教室 着付け教室
	15	金	MJK④
	16	土	池中ハートネット 絵画教室
	17	日	アルパカランド祭(MTPボランティア)
	19	火	池中校区総合サポートプロジェクト第2回委員会
	23	土	おやじ倶楽部(MTPの部屋整備)
24	日	ちびっこ柔道教室	
8月	9	火	MTPフェスティバル第1回実行委員会
	13	土	呉小吹奏楽クラブ 池中で練習
	15	月	呉小吹奏楽クラブ 池中で練習
	23	日	PTAスポーツ交流会
9月	3	土	絵画教室
	9	金	MTPフェスティバル第2回実行委員会
	10	土	絵画教室
	17	土	池中ハートネット 絵画教室 DJ理科
	21	水	MJK⑤
	25	日	池小・池中バスケットボール交流会 ちびっこ柔道教室
28	水	ETC打ち合せ	

10月	8	土	絵画教室	
	9	日	池小・呉小校区住民運動会	
	11	火	MTPフェスティバル第3回実行委員会	
	15	土	池中ハートネット ETC① DJ 絵画教室	
	16	日	ボランティア祭(MTP参加)	
	19	水	ハングル教室①	
	20	木	MJK	
	22	土	ETC② DJ 絵画教室 呉服祭り	
	23	日	ちびっこ柔道教室	
	26	水	池中地域学習【MTP2011①】 ハングル教室②	
27	木	池中地域学習【MTP2011②】		
28	金	池中地域学習【MTP2011③】		
29	土	絵画教室		
11月	3	木	みんなでバザー(MTPボランティア)	
	5	土	第3回MTPフェスティバル	
	7	月	文部科学大臣賞表彰式	
	8	火	池中公開授業研(東京大学小国准教授)	
	9	水	ハングル③	
	12	土	絵画教室 ETC DJ	
	16	水	ハングル④	
	19	土	池中ハートネット 絵画教室 ETC DJ 詩吟教室	
	23	水	おやじ倶楽部スポーツ交流会	
	26	土	絵画教室	
27	日	MJK(融合研大阪フォーラムにて) ちびっこ柔道教室		
30	水	ハングル⑤		
12月	3	土	ETC DJ 詩吟教室 池小池中ジョイント演奏会 呉小もちつき 絵画教室	
	7	水	ハングル⑥	
	10	土	キムチ漬け教室 ETC DJ 絵画教室	
	14	水	ハングル⑦ 池中校区サポートプロジェクト会議	
	16	金	MTPフェス実行委員会	
	17	土	絵画教室 ETC DJ 詩吟教室	
	25	日	ちびっこ柔道教室	
	1月	11	水	ハングル⑧
		13	金	さくら幼もちつき大会
		14	土	絵画教室 ETC
15		日	ウィンターフェスティバル(池小金管クラブ)	
18		水	ハングル⑨	
20		金	MJK	
21		土	池中ハートネット 絵画教室 詩吟教室 仙台視察	
22		日	ちびっこ柔道教室 仙台視察	
25		水	ハングル⑩	
27		金	MTPフェス実行委員会	
28	土	絵画教室 詩吟教室		
31	火	池小6年との交流(さくら幼)		
2月	4	土	JDJ 絵画教室 詩吟教室 ETC	
	5	日	おやじ倶楽部 合格祈願もちつき大会	
	18	土	池中ハートネット JDJ ETC 絵画教室 詩吟教室	
	21	火	公開保育研究会(さくら幼)	
	25	土	絵画教室	
	26	日	「学校と地域の総合的な活性化」シンポジウム (くれは音楽堂)	
3月	3	土	絵画教室 詩吟教室	
	5	月	MTPフェスティバル実行委員会	
	10	土	吹奏楽部定期演奏会(呉小) JDJ 絵画教室	
	11	日	第4回MTPフェスティバル春バージョン(呉小にて)	
	17	土	池中ハートネット 絵画教室 詩吟教室	
	19	月	池中校区サポートプロジェクト会議	
24	土	絵画教室 詩吟教室		



## 2、MTPの活動から =子どもたちの学びの場=

MTP(マイタウン・プロジェクトの略称)は、2007年度の2年生が取り組んだ職場体験学習をきっかけとして始まりました。それまで子どもたちの希望を優先し場所を厳正せずに実施していたものを、「池中校区」に限定し地域を意識した活動にチェンジしました。

170人を超える子どもの体験先を確保するため、教師が事業所を回り協力をお願いすると、思っていた以上に好評でした。そしてこの学習から子どもたちは地域の人と顔見知りになり、あいさつをするようになりました。予想以上の成果があったと思っています。この職場体験学習をベースに、毎年11月上旬(今年度は10月下旬)に子どもたちが地域とつながり活動する機会を設けようということになりました。

### ①地域学習について

#### 【福祉体験学習】

1年生は、池田市社会福祉協議会の協力を得て地域の老人ホームや障害者授産施設などを訪問し、福祉体験学習に取り組みます。この学習で子どもたちは人を助けること、ボランティア精神を育みます。また年配の人の貴重な経験を聞くことができよかったという感想を書いてくれた生徒もいます。施設や利用者の方にも積極的に受け入れてもらっており、中には継続して交流を続けている施設もあります。

#### 【職場体験学習】

2年生は職場体験学習を実施していますが、この取り組みを地域の人にもっと知ってもらいさらに盛り上げるために、2008年度には、職場体験学習の最終日に池田駅前の広場をお借りして、「MTPフェスティバル」を開催するようになりました。学校の取り組みを広く地域の人々に知ってもらうこと、イベントを通じて地域が元気になることを合言葉に、MTPフェスティバルは毎年進化を遂げています。主役である子どもたちのモチベーションも年々上がっているように実感しています。さらに2011年度の2年生は、職場体験学習でお世話になった地域に感謝の気持ちを伝えるために、地域の清掃活動や緑化活動をおこないました。子どもたちは目を輝かせながら一生懸命活動していて、地域の人にも喜んでもらえたと思っています。

#### 【進路集中学習】

3年生は校内で進路集中学習ということで、地元の学校や卒業生の協力を得て、出前授業を受けます。各高校が力を入れている専門的な授業や、現在大学生となった池中卒業生に力を借りて大学のクラブ活動を体験し、子どもたちは将来の進路や自分の興味関心に向き合い、視野を広く持って自分の進路を前向きに選択して貰えたらと思い、毎年実施しています。中学校の勉強とはまた違う学びにふれることができるこの学習は、子どもたちからも好評です。今年度は大学の専門的な授業を体験する講座を開くことができました。日本の最先端の研究を体験し、子どもたちは学ぶことの楽しさを感じることで貴重な経験となったと実感しています。

MTPも今年で5年目を迎え、学校・家庭・地域の多くの人々が一緒になって楽しみながら、「子どもたちの将来の夢を育むこと」をめざして活動を続けています。MTP活動を通じて、人とのつながりが広がっていき、新しい取り組みが広がっている点に、可能性を感じています。

### ②「よのなか」科的授業の実践

「よのなか」科とは、正解が一つだけではない現代社会の諸問題を、子どもも大人も一緒になって考え、「正解」ではない「納得解」を見つけるという授業です。6人ほどの中学生のなかに、大人1・2人に入ってもらいます。授業の中には、これからの社会を生きる子どもたちに必要な力を育むため、プレゼンテーションやディベートを多く取り入れます。「命について」「自分の人生について」など、一人ひとりが自分の思いと向き合いそれをお互いに表現することによって、さまざまな視点でものを考えることや、自分の考えをさらに深めることができます。相手の考えを否定してはいけません。正解が1つではないので、多くの人の考えを取り入れながらよりよい結論を導き出すことを目標にして学習をします。

2009年度の3年生を対象に、進路選択をテーマに「よのなか」科をおこないました。子どもたちが直面している大きな課題である自分自身の進路を、さまざまな世代の地域の大人が一緒になって考えました。そして池中の卒業生で、現在は会社の代表取締役となっている方をゲストティーチャーとしてお招きし、子どもたちに夢を持つ大切さを語ってもらいました。子どもたちはこの授業から、たくさんの方が自分の将来のことを応援してくれていると感じたように思います。自分を大切に、進路について真剣に考えることの意味をつかんだのではないかと感じています。2010年度には尊厳死を考えると「よのなか」科をおこないました。子どもたちにとって地域の人々の経験はリアリティがあって、命について真正面から向き合うきっかけとなりました。教師が語る以上のものを地域の人があ

りのままに話してもらえらる場を、「よのなか」科の授業のなかでつくることのできることに気づきました。

テストで正しい答えを書くという狭い意味での学力だけでなく、池中では人間関係づくりを広い意味での学力ととらえています。教師は子どもたちの話にじっくりと耳を傾け、人間関係をしっかりと作っていきます。「よのなか」科の授業では、多くの人の意見を聞き、考えを受け入れることが求められます。このような活動を授業で取り入れることによって豊かな人間関係が生まれ、21世紀の社会でよりよく生きるために必要な力や視野を養うことにつながると考えています。

### ③DJ(土曜授業)について

DJは土曜日の朝8時半から10時までの90分1本勝負。生徒はもちろん、教師も自由参加です。子どもたちが苦手にする1つの単元を取り上げ、まずは説明を教師が30分おこないます。そして残りの60分は、各自で準備されたプリント学習に取り組みます。そのときに地域の方々や大学生ボランティアが、AT(アシスタントティーチャー)として勉強のお手伝いをしてくれます。

DJが始まる前に、その日授業をする教師がATと打ち合わせをします。ATの方々は、子どもたちに分かりやすく伝えたいという思いを持って、教師の30分の授業を子どもたちと一緒に受けています。授業が終わると、保護者有志によるお茶のご接待があり、校長室でコーヒーを飲みながら今日の授業の感想を言ってくれます。教師とは違った視点から率直に感想を言ってもらえるので、貴重な時間になっています。

DJでは、とにかく自由な発想で授業をおこないます。目標は子どもたちの理解が深まること。そのため教科をこえた単元を設定し、授業をすることも可能です。教科担当が複数で関わることによって、授業の準備や内容に深みが出てきます。また社会科で気候について説明する時に、理科の教師が雲のでき方、雨の降り方などの動画や教材を提供したりします。そして何より、地域の方々に授業に入ってもらうことを、教師がよい刺激に変えています。教師が必ず授業をしなければならないというしほりも一切ありません。身近なものをつかった理科の実験「おもしろ理化教室」では、理科に精通された地域住民の方を先生に迎え、教師と生徒がともに学ぶDJなど新しい形も生まれています。その結果として、授業を多面的に考える習慣が身に付き、教師の力量を上げることにつながると考えています。

名前	ねらい	おもな内容
従来型DJ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中学校の学習内容を単元別に集中して解説し、問題を解く</li> <li>・ 1回完結</li> </ul>	数学：確率、一次関数 理科：オームの法則、光 おもしろ理化教室 社会：緯度・経度・時差 英語：リスニング
ジョイントDJ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 入試直前の中3を対象に、英数国を中心とした受験対策の学習をおこなう</li> </ul>	前年度の公立高校入試問題の解説など
DJベーシック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ おもに中1を対象に、小学校で習う算数を復習し、問題を解く</li> </ul>	小数の計算 分数の計算
ETC (英検トライコース)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 英検3級レベルの英文法や長文読解の学習プラス面接練習をおこない、英検3級合格を目指す</li> </ul>	

### ④池中ボランティアクラブについて

池中にはボランティアクラブがあります。地域のお祭りや行事のお手伝いをしたり、お店を出したりしています。地域から頂いた自転車の修理もしていました。このクラブには、誰でも自由に参加できます。部長はなく、子どもも大人も一緒になって活動するので、上下の関係もありません。人とのつき合いが苦手な人も、このクラブをきっかけにして人の輪を広めています。

### 3、MTPの活動 =地域の人々の生涯学習の場=

私たちが「学校に力を貸してください」と言ったとき、中学校の教室に子どもたちとおじいちゃん、おばあちゃんが居て授業を受けている(道徳の授業など)を頭に描きました。そのためには学校がいつでも開いていることが必要だと考えました。危機対応は、校門の開閉や取り締まりをキビシクするのではなく、多くの大人の目が子どもたちを見守る状態を理想と考えたのです。

地域の人が気楽に寄れる学校は、穏やかな時間が流れる学校です。その実現のためには教師の価値観の改革が必要でした。「まず子どもの話を聴くこと」をみんなが始めた時、その条件は整いました。

#### ①絵画教室

子どもと大人が同じ空間で、年齢に関係なく、「中学校の美術室で一緒に絵を描きましょう…」と呼びかけました。絵を描くことを通して、『考える子どもを育む』ことを理念に活動しています。大人と一緒に活動することで、子どもはそれぞれに落ち着いて考えることができます。現在はプロの絵本作家を講師に招き、大人も子どもも、それぞれに絵本を創っています。

#### ②ハンゲル教室

池田中学校には昔から在日韓国朝鮮人の子どもたちが通っています。いわゆるオールドカマーと呼ばれる人々です。もう40年近く前から、彼らのアイデンティティを大切にするため朝鮮文化研究会が学校のクラブ活動の一つとしてありました。ハンゲルを習ったりチャンゴを習ったりしていましたが、なかなか民族に誇りを持つ取り組みにならなかったように感じました。7年前から「ハンゲル教室」と名前を変えて、池田市のすべての人を対象に週1回10～12回連続の講座形式で再出発しました。おりしも韓流ブームに乗って毎回、小学生からおばあさんまでの参加があり、受講生が増えています。

#### ③キムチ漬教室

12月にはPTA行事としてキムチ漬けをしていましたが、対象者を校区の子どもと大人に広げ、キムチ漬教室を毎年開催しています。大人と子どもが同じ作業をすることで通じ合うことができます。また、それが食べ物なら、なおさらです。

#### ④着付け教室

もともとふれあい事業として、年1回行っていました。きもの教室の方に講師になっていただき夏休み前に浴衣の着付けについて教えていただいています。小学生、中学生はもちろん、若いお母さん方も参加しています。

#### ⑤詩吟教室

昨年の秋、お二人の方が学校に来られました。関西詩吟文化協会の方です。「子どもたちに詩吟を教えたいのですが、可能ですか？」こうおっしゃられましたが、小学生や中学生がすぐに興味を示すだろうと思ったので、「まずは自分たちで楽しんでいただいたらどうですか」とお返事しました。このような場合はMTPの活動のことを説明し、理解していただくようにしています。理念を理解していただく上で活動していただくというのは、とても大切なことだと思います。お話を聞いていただくと必ず喜んでMTPスタッフに登録していただけます。今は週1回活動されています。MTPフェスティバルの時には、披露していただきます。

#### ⑥東屋・畑プロジェクト

「学校の中庭を畑にしたら、近所のお年寄りが集まってこられ、子どもたちとの交流ができて穏やかな学校ができるだろうな。」こんな発想から、東屋・畑プロジェクトが始まりました。

体育館と技術棟の間に空き地がありました。その奥には、昔、温室だった場所があり、コンクリートの土台だけが残されていました。地域のおじいちゃん、おばあちゃんが座ってお茶を飲む場所として東屋を建てようとしたのです。

材料は呼びかけに応じていただいた地域の方々から廃材を提供していただきました。そのころ、MTPスタッフのひとりに1級建築士の方がおられ、東屋の設計図を作成してくれました。次に、現役を引退された大工さんが中心となり、東屋の建設を行ってくれました。寒い冬の日、毎日毎日、もくもくと、カンナかけをしていただきました。

3月の中頃、いよいよ棟上げです。このときのおやじ倶楽部の会長さんが電気関係の仕事につかれていますので、電気関係の工事を全てやってくれました。校務員さんも手伝ってくれて、無事棟上げができ、ようやく完成しました。

これもまた偶然なのですが、その頃、卒業生の保護者の方から電話があり、「いい土があるのだけど、学校で使ってみませんか」とお声をかけて頂きました。コーヒー豆のかすを元にした土で、完全無農薬有機栽培ができるということでした。

そうこうしているうちに、学校の近所に住んでおられる5家族の方々が学校に来られ、畑で野菜を作りたいとの申し入れがありました。このときもMTPの取り組みについて説明をし、理解をしていただきました。全員スタッフになっていただき、MTP自然教育事業部：畑スタッフがスタートしたのです。

畑スタッフのメンバーは、ほぼ毎日活動してくれています。校舎内でも日頃あまり手をつけられないような場所を綺麗にしてくださっています。クラブ活動でランニングをするコースの横でもあるので、生徒たちとも顔見知りになって、挨拶する生徒が増えてきました。ときどき生徒たちも収穫の手伝いをしています。

東屋では休み時間に、おばあちゃんと子どもが話をしている風景が見られます。支援学級の畑もあり、おじいちゃん、おばあちゃんと一緒に芋堀りなどを行っています。

MTP フェスティバルでは、畑スタッフが中心になって、手作りパンの販売もしています。土を無償で提供してくれた株式会社アルツさんも、MTPフェスティバルでは毎回出店してくれています。

#### ⑦花壇の整備

校舎の間の花壇にパンジーやバラを植えて、花壇の整備をしてくれるメンバーがいます。もともと、職場体験学習のときに支援学級生徒がお世話になったパンジーというNPOの方々です。それ以来、校内の花壇を整備して、いつも花がある状態にしてくれています。

#### ⑧池中ハートネット(編み物教室)

池田中学校の12、3年前のPTAのボランティア活動を、ハートネットと呼んでいました。当時は、さまざまな活動がされていましたが、今では「編・編(あむあむ)隊」だけが残り、MTPに加入されました。家で余った毛糸をもらい、さまざまな物を編んで、MTPフェスティバルやバザーの商品にします。バザーの収益金は毎年クリスマスに福祉施設に寄付されます。毎月第3土曜日に中学校に集まって話をしながら編み物をされています。時々、家庭科クラブの中学生も参加しますし、他市からのおばあさんの参加もあります。月一回の無理のない運営が、長く活動を維持する秘訣だと教えてくれます。

#### ⑨池中会・皇治後援会・ボクササイズ教室

池中には、「池中会」という卒業生の組織があります。今、45歳を頭に20代までの人で組織されています。彼らは中学時代に「ゴンタ」と呼ばれていましたが、大人になった彼らの多くは小さな会社の社長をしています。また、仕事関係では相互扶助をしています。教職員や子どもたちに協力的で、顔も知らない池中の後輩のためにも、一生懸命面倒をみてくれます。彼らの存在がMTPを作ったと言っても過言ではありません。

彼らが、池中出身のキックボクサー、リング名『皇治』の後援会を立ち上げました。皇治も彼らの気持ちを受け止め、今年(2012年)4月に日本チャンピオンに挑戦します。彼のトランクスにはMTP池中会の刺繍がなされています。

皇治が落ち着いたら、週1回のボクササイズ教室を池中で始めることになっています。子どもと大人が一緒になって、ボクササイズを楽しむ教室にしたいと思っています。

#### ⑩子ども柔道教室

もともと本校の職員であった方を中心に、池中の柔道場を使って、小学生向けの柔道教室を月1回開いています。柔道のための柔軟体操などを中心に、柔道の基本を学んでいます。

#### ⑪珈琲研究会

「学校を核としたコミュニティ」をつくるため、学校とは、あまり縁の無い方にも学校に来ていただくことを目的に、「大人のクラブ活動」として、「美味しいコーヒーの淹れ方を学び、自分好みのコーヒー豆を探そう」と呼びかけてはじまりました。「MTPの部屋」ができたことをきっかけに、平日に月1回、校区のコーヒー豆屋さんを講師に招いて実施しています。1時間ほどの間、コーヒーについて学び、集まった方同士で世間話をしながら、美味しいコーヒーを味わいます。ゆくゆくは、お茶や紅茶の研究会も発足させ、「MTPの部屋」に行けば、いつも本格的なコーヒーやお茶が飲めるようにしたいなど、夢を描いています。

#### 4、MTPの活動 =教職員の学びの場=

##### ① MJK(未来人権教育フォーラム)について

教員にとっては、子どもたちに授業の中で学力をしっかりと身につけさせる事は当然のことですし、そのために教員自らが授業の力量を高めていかなければならないと考えています。しかしながら、日々の学校での仕事(授業、学級経営、クラブ指導、生徒指導、校務分掌等)に追われ、自己の授業力を延ばすための時間や機会がなかなか持てないのが現状です。そこで、校内で数名の教員と相談し、『コミュニケーション力の向上』および『授業力の向上』のために、毎月1回さまざまなテーマで勉強会をすることを考えました。

2011年の12月からMJKをスタートし、第1回目の内容は20分ほどの模擬授業を行った後、「話し方」や「導入・展開」などについての検討会をしました。2回目以降は、『よのなか科の授業についての検討会』や『チョークできれいな文字を書くための勉強会』、アナウンサー経験のある保護者の方をお願いして、『聞き取りやすい声の出し方・発音についての勉強会』をしたり、『3分間で、人にわかりやすく話を伝えるか』ということで、参加者があらかじめ準備したネタを約3分間話した後、その内容などについて評価し合ったりしました。

検討会については『自分ならば、どのようにするか』という考えをもとに、参加者全員で肯定的に意見を出し合うというスタイルで行っています。参加者については、教員・事務職員・保護者・地域の方々などさまざまで、それぞれが自分の考えを発言しやすい雰囲気の中で行っています。

##### ◇活動内容

- ① 「三角形の重心」の模擬授業の検討会
- ② よのなか科の授業についての検討会
- ③ 伝え合う力「国語」
- ④ きれいにチョークで文字を書こう(パート1)
- ⑤ 研究授業のビデオを見て検討会
- ⑥ 解りやすい説明「数学」
- ⑦ コミュニケーション力の向上
- ⑧ きれいにチョークで文字を書こう(パート2)
- ⑨ 3分間で解りやすく説明する(1回目)
- ⑩ 3分間で解りやすく説明する(2回目)
- ⑪ 3分間の面白い話

##### ② スクールサポーターについて

日常的に学校にいてくれて、子どもたちと接してくれるスクールサポーターを求めています。このスクールサポーターの増員が今の公立中学校にはとても大切だと考えます。いろいろな事情で授業に入れない子も、不登校になることなく、学校に来て居場所を見つける大切な人なのです。サポーターと教職員が互いの立場を尊重しあいながら協力していける体制は、公立中学校にとって必須条件だと思います。

本校では、関西大学にお願いして、学校インターンシップとボランティアの協力をお願いしました。すでに学生からボランティアの協力の申し出がありました。また、近隣の大学にも呼びかけています。大阪大学や関西大学とは、教員志望の学生サークルとのつながりができ、人が人を呼ぶ仕組みができつつあります。

池田市教育委員会の青少年センター「サポーター」や「池田子どもの学びサポート」、「ふくまる教志塾」、大阪府教育委員会の「大阪教志セミナー」などの制度を活用することも可能になってきました。大阪大学では教職科目「総合演習」という授業の一環として学校に学生が来られることもあります。

もうひとつスクールサポーターを確保する方法として考えていることがあります。中学3年生に、卒業と同時にMTPスタッフに登録してもらうのです。

「うちのMTP、またテレビに出るで〜、君たちもスタッフになるよな〜」卒業式を前にした3年生のクラスで話しました。「ああ、ええ〜でえ〜。俺、将来は教師になって、池中でサッカーの顧問をするねん」…。これが続けば、至る所にMTPのスタッフができるのです。

## 5、MTPの活動 =地域の人々の集いや出会いの場=

### ①池田中学校区MTPフェスティバル

2007年度中学2年生が職場体験学習を校区限定で実施しようとしたとき、自分たちでお店を出そうよという声がありました。10人ほどのグループが、阪急池田駅のすぐ前の広場と商店街の空き店舗をお借りして、お店を出しました。このとき、池中吹奏楽部のメンバーが応援イベントとして演奏会をしてくれました。思いのほか、たくさんの方々が集まってくださり大成功でした。それから3年、同じ広場をお借りして、同じようなイベントを行ってきました。小学校の吹奏楽部、チャンゴクラブの演奏と踊り、三線の演奏、チェアリーディングの演技、高校生バンド、地域のおやじバンドなど、毎年ステージに出てくれるグループが増えました。

そしてむかえた2010年度。同じ会場をお借りしようと市役所に連絡をすると、何と先約があり、借りることができなくなりました。代わりに市役所横の池田駅前公園をお借りすることができたのですが、広さが今までの会場の倍以上で、駅前の広場のようにステージが無いので、ステージも作らなければならぬ…。いろいろな問題が出てきましたが、MTPらしく何事も無かったように乗り越えました。また、この年は、小中学校のPTA役員同士の交流が盛んだだったので、「一緒にやろうか」という話しになりました。

ここからが、池中校区MTPフェスティバルとしてのスタートでした。コンセプトは「みんなのため、まちのため ~誰もが住み良い地域をつくろう。その第一歩はたくさんの人々が顔見知りになること~」になりました。当日は天候にも恵まれ、盛大に開催されました。小学校と中学校の名前の入ったテントと一緒に並ぶ光景を見ながら、「やればできるんだなあ」という思いが込み上げてきました。裏方として、テントや楽器の運搬、テントの設営に協力してくれたのが、池中会を基盤とした地域の青年事業家のグループです。子どもたちのために、街のためにと、凄い力を発揮してくれました。

### ②オヤジ倶楽部と池中会

池中PTAにはおやじ倶楽部があります。池中ガイドには次のように紹介されています。

学校に関心はあるが、どう関わったらいいかわからない。  
池田に転居してきたが、池田の事が右も左もわからない。  
最近、子どもとの距離を感じて…  
学校の全体像が見えない…  
そんな方は、オヤジ倶楽部(お母さんの参加も歓迎です!)に参加しませんか!  
学校行事のすき間を縫って、子どもたちと親と一緒にできる普段着の活動を企画します。  
参加希望の方は、学校までお問い合わせください。

年に数回集まって、学校の設備の修理をして下さったり、冬の受験前には、合格祈願もちつき大会を行います。

一方、地域には『池中会』という会があります。「ちょっと学校に力を貸して下さい」(池田中学校MTP事務局編著)には次のように書かれています。

MTPには、42歳を上を25歳ぐらいの池中卒業生が30名ぐらい登録されています。彼らの多くは、中学時代、歴代しんどかった生徒でした、彼らは『池中会』と言う会を作り、お互い仕事の上で相互扶助を行ったり、ゴルフのコンペをしたりしています。彼らは、池田中学校をいい学校にすることに熱心です。

先にも述べましたが、池中会の方々は、就職を希望する生徒の相談にのり、就職先を一緒に探してくれます。また、オヤジ倶楽部と池中会のメンバーと一緒に、校内の整備をしてくれたりします。整備の後は懇親会を行いますので、そこで、お互いの親睦が深まっていきます。

MTPフェスティバルでは、テントや楽器の運搬、テントの設営などを全てやってくれます。「先生、もっと子どもと一緒にできること考えてや」と、「いつも子どものためなら何でもするよ」というメッセージを投げかけてくれています。

最初は他人同士でも、何かをきっかけに知り合い、顔見知りになり、そして連携に至る。池田中学校では、「子どもの幸せをめざした活動」をきっかけに、たくさんの連携と、たくさんの笑顔が増えました。この連携の輪を、もっと繊細に、もっと大きくできるように、教職員と保護者と地域が丸となって、これからも取り組んでいきます。

# 考 察

## 実証的共同研究の成果と課題

実証的共同研究の実施により、池田中学校区MTPの活動の継続と拡充を図ることができました。

具体には、珈琲研究会や詩吟教室などの市民参加型の講座の新設や、ハンゲル教室やキムチ漬け教室、絵画教室など既存の講座の定員数を大幅に引き上げることができました。

また、MTPフェスティバルを年間で3回開催(昨年度は1回)し、延べ約1,000名の参加を得るなど、学校・家庭・地域の協働の場を池田中学校区に定着させることができました。

このように、活動が充実し、学校を核にさまざまな人が集い、「タテの関係」「ヨコの関係」「ナナメの関係」といったつながりが強くなる中、地域の活動も活性化してきました。

例えば、池田市では地域分権の取り組みによって、小学校区ごとに「地域コミュニティ推進協議会」がおかれています。MTPフェスティバルなどを実施する中で、池田中学校区を構成する池田小学校区の「池田地域コミュニティ推進協議会」と呉服小学校区の「呉服地域コミュニティ推進協議会」のつながりが強くなり、今では後援団体として協働するようになりました。このことから、池田中学校区MTPの取り組みの拡充は、学校を核にした地域コミュニティの形成・発展につながるということが明らかになりました。

### 【シンポジウムより】

今回の強化プロジェクトのねらいは、「社会教育による地域の教育力強化」です。池田中学校区MTPの活動の拡充によって、保護者・地域住民が積極的に学校や子どもにかかわる機会を増加させることで、「地域の子どもは地域で育てる」という機運も高まっています。

この機運をさらに高めるために、今年度は、池田市「学校と地域の総合的な活性化」シンポジウムを開催しました。共同研究の成果発表や教育コミュニティづくりについての啓発を目的として、池田中学校区MTPの実践報告や、先進的に取り組みが行われている地域の実践報告、さらに学識者をまじえたパネルディスカッションを実施しました。当日は、池田中学校区の住民を中心に約200名の参加があり、教育コミュニティづくりに対する関心が高いことが分かりました。

参加者のアンケートには、「保護者を卒業しても、地域の人としてかかわっていきたいです。」「国際競争力を維持するため、また、大人も子どもも楽しめる地域コミュニティをつくるために推進に参画したいと思います。」といった意見があり、教育コミュニティづくりに対する期待感と参加意欲を読み取ることができました。

教育コミュニティづくりへの参画に対し前向きな回答は、保護者・市民においては40パーセント前半で、教職員は70パーセントを越えています。子どもに日常的に接している教職員の参画意欲が高いことはある意味当然のことではありますが、その高い意欲とは裏腹に、実際の地域協働の場面には、教職員の姿があまり見られないという課題があります。このことから、地域との協働の場面に「参加したくても参加できない」状況にある教育現場の課題を探る必要があると考えます。

### 【市民意識調査アンケートより】

MTPの活動を発展させるための基礎情報として、学校支援活動への参加を考えている住民の潜在的なニーズを掴む必要があります。池田中学校区地域住民の学校支援に対する意識を把握し、MTPの拡充のためにどのような手立てが有効であるかを探るため、市民意識調査アンケートを実施しました。

MTPの活動を認知度について調査した結果、全体では66.2%が「知らない」と回答し、「詳しくは知らなかったが、名前だけは知っていた」、「活動内容まで知っていた」を合わせても、今回の調査以前にMTPの名前を知っていたのは34.8%に過ぎないことがわかりました。

「知らなかった」と答えた回答者の、「今まで全く知らなかったので、もっとわかるようにしてほしい。(30歳代/女性/専業主婦)」「何をやっているのか、どこへ行けば申し込めるのかなど、アピール活動が必要。(60歳代/女性/専業主婦)」「全く活動を知らなかったので、もっと広報してもらえたら興味も高まると思います。(30歳代/女性/専業主婦)」などの意見のとおり、まずは宣伝・広報活動の充実が必要であるということがわかりました。

特に、学校園とのつながりが薄い地域住民に対する広報活動を、今後どのように展開していくかを考える必要があります。

初回参加に対する“壁の高さ”も指摘されていますが、「参加している方からもっと市民に誘いかけたらどうでしょうか。年齢を重ねて一人暮らしになった方々も家から出やすい場所があると良いのではないのでしょうか。(60歳代/女性/専業主婦)」という回答もみられました。



## 【まとめ】

池田中学校区マイタウン・プロジェクト(MTP)は、「学校と地域が融合した新しい学校づくり」をめざし、将来的には「中学校区全体で、“地域の子どもは地域で育てる”という意識が育まれる」、「すべての人々の人権を柱とした学校づくり・まちづくりの気運が高まる」、「活動を通じて地域のつながりが強まり、社会が元気になる」といったことを想定しています。

活動をはじめてからおよそ5年が経過しましたが、この活動をさらに発展させていくためには、もう一度足元を見つめなおしておく必要があります。

以下に、MTPの活動から見い出すことのできる地域と協働した教育コミュニティづくりのポイントをまとめました。

### ==== 力を入れるコツ・持続発展させるコツ =====

#### ● 学校側からの呼びかけが大切

教職員と地域のチームで動く

学校からのアプローチ → 池中ガイド、情報発信、具体的な呼びかけは教員から

#### ● 地域の人々の活動について具体的内容をつくっておくこと

多種多様な活動をつくる(具体的・日常的・継続的な活動)

#### ● 取り組みにスピード感をもつこと → 子どもによりことはやってやろう

#### ● 地域の人々の集いや出会いの場をつくる

MTPフェスティバル、池中会、オヤジ倶楽部、MTPの部屋(日常的に地域の人々が集う)

MTPクラブ活動(絵画教室、ハングル教室、キムチ漬け教室、着付け教室、詩吟教室、東屋・畑プロジェクト、花壇整備、池中ハートネット、皇治後援会・ボクササイズ教室、子ども柔道教室、珈琲研究会)

#### ● 「無理なく楽しく」続ける工夫が必要

地域の人々は「自分たちの楽しみ」を求めてやってくる

学校の応援団から「自分たちも楽しむ集団」へ

#### ● 学習で地域と積極的にかかわること

福祉体験学習、職場体験学習、よのなか科、土曜授業(DJ・DJB・JDJ・ETC)

市民意識調査アンケートからは、MTPへの参加によって地域とのつながりを深めることができることが明らかになりました。ただ、学校に子どもがいないので参加したくてもできない人や、参加したくても小さな子どもがいるので参加できない人がいることもわかりました。今後さらに活動を拡充するためにも、子どもと一緒にできる活動や参加しやすい時間帯の工夫が必要です。

加えて、アンケートでは「情報がないので関心の持ちようがない」という意見が半数に上り、参加する方法や活動内容を知らせる広報活動の必要性も明らかになりました。今回、共同研究の一貫として、広報誌「MTP通信」を池田中学校区全家庭(1万2000戸)に配布しました。この広報活動への反響は大きく、MTP活動の拡大につながりましたが、広報活動のための安定した財源をどのように確保していくかが課題です。

池田中学校区MTPを対象とした今回の共同研究で明らかになった地域の教育力強化に対し成果があるものについては、他中学校区の取り組みに付加できるよう、情報提供に努めていくことが必要です。また、課題については、来年度に向けて引き続きその解決策を探っていかなければなりません。

各校園における教育コミュニティの充実、地域の発展、教育のまち池田の発展に、確実につながっていくものです。今回の共同研究の成果や課題をふまえ、今後も、地域のネットワークの活性化により、学校・家庭・地域が力を合わせ、子どもの学びと育ちを支える、そのような「教育と文化のまち池田」をめざしていきたいと考えます。

# 資 料

# 池田中学校ボランティア活動 ハート・ネット隊員募集

ハート・ネットは1999年PTA活動として始まりました。  
現在はPTA・生徒・地域の方々に参加していただいています。

連絡先 池田中学校 751-4187

その日の気分ですれでも  
参加して下さい。みんな  
楽しみましょう。



美しい庭のある学校に!!

**ガーデニング隊**  
地域の方々にもお花見、散歩を楽しんでいただけるように。

介護施設への清拭布作り

**チョコチョコ隊**

綿古布・毛糸・毛糸のモチーフ  
(10cm×10cm)などの提供をお願いします。

初心者歓迎!!

**あむあむ隊**

作品・バザー収益金は地域福祉施設に送らせていただきます。

活動日 毎月第3土曜日 午前10時～正午  
活動場所 池中学校長室

# 限大生の皆さん、力を貸してください!!

教職員+家庭+地域のつながりで、子どもの明るい未来を創る

池田市立 **MTP**  
池田中学校 マイタウン・プロジェクト



学生ボランティアを募集しています

内容：・勉強のサポートをする、話し相手になる。  
・クラブ活動の指導補助等、学校生活全般にかかるサポート  
・学校行事のお手伝い、HPの更新など学校運営にかかるお手伝いなど。  
(学校では「スクールサポーター」と呼んでいます)

時間帯：子どもたちが学校にいる時間帯(9時ごろから17時ごろの間)で、都合の良い時間帯。それ以外の場合には、ご相談下さい。

資格：特にありませんが、子供の悩みを受け止めてくれる方、自分自身を成長させたい方。人と接することが好きな方。お力を貸してください。



学校についての詳しいことは、  
池田市立池田中学校ホームページ

をご覧ください。  
なお、本件について不明なことなどご質問等ございましたら、下記のメールアドレスあるいは、お電話にてご連絡下さい。よろしくをお願いします。

池田市立池田中学校  
〒563-0027 大阪府池田市上池田 1-6-17

(阪急宝塚線 池田駅より北へ徒歩10分)

ホームページ: <http://www.school.iked.osaka.jp/ikeda-jhs/>

TEL: (072)-751-4187

メール: [etou-hiroshi@school.iked.osaka.jp](mailto:etou-hiroshi@school.iked.osaka.jp)

担当: 衛藤(えとう)



池田市立池田中学校は

「安心して学べる学校づくり」を教育目標としています。

## 第11回 いけだ春団治まつり ボランティア募集

4月24日(土曜日)25日(日曜日)[9:00~16:00]豊島野公園【市民文化会館の隣】で池田中学校 MTP が出店します。たぶん「焼きそば??」を作って売る予定です。

それを手伝ってくれる人を募集しています

『春団治まつり』にはここ数年毎年、出店しているのですが、去年に引き続き2日間の実施になります。1日でもいいですからお手伝いをお願いします。もちろん、お父さん・お母さん・おばあちゃん・おじいちゃんでも結構です。どしどし参加してください。よろしくをお願いします。

ボランティアに参加してやろうと思われた方は下記の参加表を担任の先生まで提出してください。

【池田中学校 MTP ボランティアのルール】

- ・誰でも参加できます。ボランティアをしている間は大人と子供の・先輩後輩の区別はありません。皆、自由です。だからと言ってみんなため口でいいと言っているわけではありません。
- ・食べ物を扱いますから清潔に心がけてください。
- ・お金を扱いますから、中学生だからという理由で、許されることはありません。
- ・保護者の許可を得てください。必ず時間を言ってお家まで、その時間を守ってください。

切り取り線

いけだ春団治まつりボランティア参加表

○をしてください ・25日参加する ・26日参加する ・2日とも参加する

年 組 番氏名 \_\_\_\_\_

保護者氏名 \_\_\_\_\_ 印

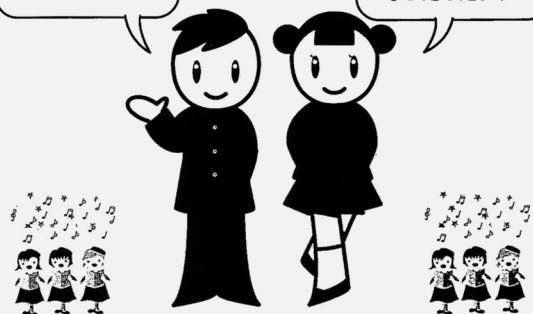
TEL \_\_\_\_\_

# MTP 詩吟教室

マイタウン・プロジェクト

漢文が苦手な人も  
読めるようになるよ

大きな声を出して  
気分スッキリ!  
歌もうまく  
なったみたい♪



場 所 池田市立池田中学校  
日 程 毎週土曜日  
時 間 午前10時～12時  
責任講師 公益社団法人 関西吟詩文化協会  
安田 鷺迪 (ろじゅん)

絵を描くのが好きな方へ

マイタウン・プロジェクト

# 美術部

## 部員募集中!

### ■募集要項

内容：水彩・油彩・デッサンの他、描きたい絵を自由に描く、市民のクラブ活動です。  
※初心者には、指導も行います。

対象：絵を描きたい人なら誰でも。(ただし、小学校低学年以下の方は、引率者同伴をお願いします)

活動日：毎週土曜日 午前10:00~12:00

場所：池田中学校美術室、他

保険代：年額1000円(物が壊れた時などの保険)

部長(講師)：横山泰介(画家・池田市青少年センター)

※画材は、各自でご用意ください。

### ■お問い合わせ・申込み

会場に直接お越しになるか、下記までお問い合わせください。

池田市公益活動登録団体 **マイタウン・プロジェクト**

連絡先：池田中学校 tel.751-4187 担当/やまだ あき

後援：池田市公益活動促進協議会

### 大人のクラブ活動



# 珈琲研究会

～自分好みのコーヒーを探す小旅行～

今回のテーマは、『ブラジル』です。

同じ種類の豆でも、焼き加減で味や香りが「全然違うんや!」ということも、ミディアムロースト・シティロースト・フレンチローストも味わっていただきます。

- と き：2012年3月28日(水) 13時~14時
- と ころ：池田市立池田中学校 MTPの部屋 (3号館1F)
- 費 用：1,000円
- 講 師：加藤健一氏 (RossoBeansCaffe 代表)
- お問い合わせ：☎072-751-3394 (ロッソビーンズカフェ)

※参加ご希望の方は、当日、池中正門(東向き)より直接会場にお越しください。  
※池中校区外にお住まいの方も、ご遠慮なくお越しください。

### 大人と子どものクラブ活動

# 絵画教室

絵画教室は、子どもから大人まで、楽しみながら自由に絵を描く、市民のクラブ活動です。個人と個人の価値観を尊重し、「絵は創るもの」を理念に活動しています。

【4月の予定】14日、21日、28日の土曜日 午前10時~12時まで

場 所：池中美術室

持ち物：初めてのの方は、B~2Bの鉛筆と消しゴムをご持参ください。

費 用：無料

講 師：横山泰介(画家) 上山みどり(絵本作家)



阪急バス 辻ヶ池公園前下車徒歩5分

主催：池田市公益活動登録団体 **マイタウン・プロジェクト**

池田市公益活動登録団体マイタウン・プロジェクトは、池田卒業生と池中PTA経験者を中心に、「池田に住んでいる子どもの幸せ」を目指して活動している団体です。大人と大人、大人と子どもが顔見知りになるきっかけを作るため、学校内でクラブ活動をさせて頂いています。

# 皇治 Kougzi



「広報いけだ3月号」でも紹介されました  
キックボクシング・NJFKスーパーバンダム級で  
池田中学校出身の **田中宏治** 君が  
タイトルマッチを懸けた試合に臨みます!

### “DEEP ☆ KICK”

と き：2010年4月4日(日) 15:00~

場 所：テクスピア大阪  
大阪府泉大津市旭町22-45  
南海本線泉大津駅下車徒歩2分

チャンピオンを目指して頑張っている“皇治”を  
みんなで応援してあげてください。

なお、マイタウン・プロジェクトでは  
“皇治”の「ボクササイズ教室」と  
“皇治”の「護身術教室」を計画しています。  
詳細は、決まり次第お知らせいたします。

お問い合わせは、池田中学校「三宅」まで。

NJFK連盟スーパーバンダム  
NPO法人日本キッズボクシング協会関西支部理事  
二刈会所属

2011(平成23年)5月22日  
池田市内小学校通学の保護者様

主催 池田市立池田中学校MTP

### 池田ちびっこ柔道クラブの募集

-MTPの池田の地域文化育成の一貫として実施します。

※加入申し込みは随時承ります。直接MTP事務局・池中事務室までご連絡ください。

集合場所：池中正門から右手3号館裏階段から下履きのままで柔道教室へ行ってください。

練習内容：柔道のための柔軟体操、柔軟、受け身、寝技、立ち技の基本等

持ち物：体操履、または体操履に代わるもの

定員：5~10名程度(対象 小学校1年~6年までの男女、※経験の有無を問わず60歳以上も可)

(付き添いの保護者の方の見学および補習も可)

講師：堀 弘鏡(元豊能地区中学校柔道連盟専門委員長)

福田 政男(神戸大柔道部OB).....いずれも池田市在住

練習場所：池田市立池田中学校3号館 柔道場 更衣は隣別室(予定)

費用：無料、別に団体保険年間960円後日別途徴収(お子さんのみ加入・後日連絡)

※極力ケガのないよう、指導しますが、もしケガをなされたも責任を負いかねます。念書提出の上ご了承下さい。

※対象は小学生となりますが、一緒に、指導をしていただけるようでしたらご遠慮なくご申し出下さい。(※下記記入要)

### 2011(平成23)年度 年間実施計画

定例練習：各月第4日曜日です。・・・期間は一年間単位となります。

時間：基本的には午前10時から12時。 ※第一回は5月22日(日)午前10時・集合池中正門

実施予定：5/22,6/26,9/25,10/23,11/27,12/22,2/26,3/25の全8回の予定ですが、変更は随時事前連絡

※欠席連絡は実施当日8:30-9:30 自宅あるいは前日池中事務室072-751-4187迄

緊急連絡：緊急連絡のある場合はスケジュール子ども絵本づくりサイトhttp://www.sd.biglobe.ne.jp/~h914/

駐車：どうしても必要な場合は学校事務室まで予めご連絡、ご相談ください。

基本は、徒歩または、自転車でお越しください。

※正式加入の場合の柔道着は各自ご用意をお願いします。(なくても活動できます。)

連絡先：池田市立池田中学校MTP事務局 電話番号 072-751-4187



..... キ リ ト リ セ ン .....

### 参加申し込み及び希望用紙 (※印については必ずご記入お願いします。)

○指導希望者氏名( ※省略可) 性別( ) 年齢( ) H23.4.1現在

郵便番号(※) 住所(※) 電話番号(※)

特に健康面での懸念されることがあればご記入お願いします。

### 2011(平成23)年 月 日( ) 念 書

○参加者氏名(※) 性別(※)

所属学校名(※) 学年(※) 生年月日(※)

池田市立池田中学校MTP殿

池田ちびっこ柔道クラブ活動時におけるあらゆる事故について、その責任を問うことは一切しません。

保護者氏名(※) 印)

池中MTP研究組織

未来人権教育フォーラム

# MJK

《基本理念》

公立学校ならではの教育システム！  
 子どもたちに、成熟社会を生きていく  
 『学力』をつける教育システムを創る。

- 【活動内容】・夏の一泊セミナーの実施  
 ・PISA型学力を柱にした授業の教材集づくり  
 ・機関紙の発行 ・情報交換 など
- 【参加資格】《基本理念に賛同されるすべての人》  
**※参加される方は下記に連絡してください。**

【連絡先】

大阪府池田市立池田中学校  
 MTP事務局（担当：かやき）  
 〒563-0027  
 大阪府池田市上池田1丁目6番17号  
 TEL：072-751-4187  
 FAX：072-751-4297  
 E-mail  
[kayaki-osamu@school.ikedaka.osaka.jp](mailto:kayaki-osamu@school.ikedaka.osaka.jp)



## 第3回 池中校区

# MTP フェスティバル

子どもも大人も毎日笑顔で過ごしている  
 住み良い街をつくりたい  
 その第一歩はたくさんの方が顔見知りになること  
 このフェスティバルに来て、顔見知りになってください！

みんなのため まちのため  
stage

### 魔法のRANPコンサート

- 池小 金管クラブ
- 呉小 吹奏楽部
- 池中 吹奏楽部
- 池小・呉小・池中 合同演奏
- 呉小 チャンゴクラブ
- ディアーズ
- 有志による  
ライブ&パフォーマンス



booth

- 焼きそば ~ 池中MTP
- たこせん&飲み物 ~ 池中PTA
- ポップコーン ~ 呉小PTA
- たまこニヤク ~ 池小PTA
- チヂミ ~ 池小教職員有志
- おでん ~ 松前
- 焼き鳥 ~ キンカントウ
- わたがし&フランクフルト  
~ 池田市高工業青年会
- ハリケーンポテト&から揚げ&ラムネ  
~ 三恵園・こすもす
- お菓子&くじ引き ~ ネスロック
- 手織み作品 ~ 池中ハートネット
- フリマ&スーパーボール ~ teamマン
- フリマ・ファンシーグッズいろいろ  
~ FON
- 古本市 ~ 池中図書館委員会



2011年  
 とき：**11月5日(土)**  
**11:00~15:00**  
 ところ：**池田駅前公園**  
 (池田市役所前) ※雨天中止

### 東南アジアに笑顔を送ろう

~池田市学生ボランティアプロジェクト~  
 ラオス・ミャンマーの子どもたちに、絵本や  
 文房具を送っています。  
 字が少くない絵本や、鉛筆・消しゴム・ノート  
 ・ボールペン・クレヨンなどのご寄贈をお待  
 ちしております。



主催：MTP・池田中学校区総合サポートプロジェクト  
 後援：池田市教育委員会・池田地域コミュニティ推進協議会・くれば地域コミュニティ推進協議会  
 お問い合わせ：池中校区MTPフェスティバル実行委員会（池田市立池田中学校内 ☎751-4187）

マイタウン・プロジェクト

# MTP フェスティバル

日時 2012.3/11(日) AM10:00~PM3:00

場所 池田市立呉服小学校体育館・グランド(※雨天の場合は体育館のみ開催)

- ~ステージ発表「魔法のRANPコンサート」~  
 ○呉小吹奏楽部 ○池中吹奏楽部 ~ 2校合同演奏 ~  
 ○呉小チャンゴクラブ ○Rickey ma夢 ○詩吟 ○有志によるライブ  
 ◎プロミュージシャンのライブ&パフォーマンスもあるよ!

- ~模擬店~  
 ・焼きそば・コーヒ(池中MTP・PTA)  
 ・手作りパン(池中MTP自然事業部)  
 ・ぶた汁(池小PTA)  
 ・ぜんざい(呉小PTA)  
 ・ポップコーン(さくら幼稚園)  
 ・おでん(松前) ・やきとり(凡場)  
 ・たこせん&コロッケ&フランクフルト  
(高工業青年会)  
 ・ハリケーンポテト&から揚げ&ラムネ  
(三恵園・こすもす)  
 ・お菓子&くじ引き(ネスロック)  
 ・マドレーヌ(保食の会)

- ~フリーマーケット&お楽しみ店~  
 ●フランク(呉小キッズランド)  
 ●園芸用品(アルツ)  
 ●手織み作品(池中ハートネット)  
 ●フリマ ファンシーグッズいろいろ(FON)

★古本市やってます。(池中図書館委員会)  
 みなさん、来て下さいね!

私たちは、  
 池田青年連合会・アトラス 東日本大震災復興支援事業  
 1億円プロジェクト「池田さんから」に協賛します。

みんなのため まちのため

子どもも大人も楽しくなる、住み良い街をつくりたい。  
 その第一歩は多くの人々が顔見知りになること。  
 みなさん、このフェスティバルで顔見知りになってください!

主催：MTP(いけだNPO)・池田中学校区総合サポートプロジェクト  
 後援：池田市教育委員会・池田地域コミュニティ推進協議会・くれば地域コミュニティ推進協議会  
 お問い合わせ：池中校区MTPフェスティバル実行委員会 ☎072-751-4187(池田市立池田中学校)

NO.1 2011. 4. 18

TEL072-751-4187

FAX072-751-4297



マイ・タウン・プロジェクト  
 池田中学校事務局

☆今年も MTP が始まりました。

◎第2回池中校区 MTP フェスティバル 4月2日(土曜日)  
 【東日本チャリティーフェスティバル】晴天のもと桜も間に合い、焼きそば・トン汁・アムアム・畑グループ・OB会などすべてMTPの祭りに参加していただいた多くの皆さん、本当に皆さんの参加・協力ありがとうございました。(119179円の義援金が集まりました。「何か出来ることから…」皆さんの熱い気持ちが伝わりました。本当にありがとうございました。)

◎絵画教室…4/9(土曜日)から今年も始まりました。  
 4/16日(土曜日)の参加もありがとうございました。  
 場所は美術室、時間は10:00~  
 4月は23日(土曜日)の予定です。  
 場所は美術室、時間は10:00~

◎新企画…「池田ちびっこ柔道クラブ」の募集のお知らせ。

小学校1~6年生の男女 \*60歳以上の参加も可  
 講師 堀 弘義先生(元中体連豊能地区専門委員長)  
 福田政男先生(神戸大柔道部OB)  
 練習場所 池田中学校3号館3階 柔道場  
 予定日時 各第4日曜日 午後10時~12時  
 費用 団体保険の費用がかかります。(別途徴収)

\*4月24日(日曜日)にお試し体験会が行われます。10時に池中正門前集合  
 持ち物 体操服、体操服に代わるもの、  
 付添の保護者の見学 練習参加ももちろんOKです。  
 MTP便りの裏面に詳しい募集要項を添付しておきます。  
 参加希望の方は「お試し体験会」当日、申込希望用紙を持って、参加してください。

◎第11回「いけだ春団治まつり」出店予定

4月29日(金曜日)30日(土曜日)【9:00~16:00】豊島野公園【市民文化会館の隣】で池田中学校MTPが出店します。好評の池中MTP特製(焼きそば)を作って売る予定です。『春団治まつり』にはここ数年毎年、出店しています。今年も去年に引き続き2日間の出店を予定していますので、「いけだ春団治まつり」にお立ち寄りの際は池中MTPのボランティア店「特製焼きそば」の応援をよろしくお願ひします。

地域とともにある  
学校づくりをめざして

## 「学校と地域の総合的な活性化」 シンポジウムが開催されます

「地域とともにある学校づくり」をめざして取り組んでいる池田市の教育活動について、たくさんの市民に知っていただくため、『学校と地域の総合的な活性化』シンポジウムが開催されることになりました。

プログラムは3部構成で、「学校と地域が融合した新しい学校づくり」をめざして2007年から活動を始めた池田中学校区MTPの、これまでの取り組みについての報告や、「学校を核としたまちづくり」のパイオニアで全国的に活躍されている、千葉県習志野市秋津コミュニティ顧問の岸裕司氏による講演と、日頃から池田中学校に協力して下さっている教育関係の方々を中心としたパネルディスカッションが行われます。

ぜひ、この機会に、池田中学校区で行われているMTP活動について知っていただき、「教育のまち池田」が推進する教育コミュニティづくりについて、一緒に考えてみませんか。

市民の皆さまのご来場をお待ちしております。

**とき** 2月26日(日) 12:30~16:30 (12:00開場)

**ところ** 池田市立くれは音楽堂 (呉服小学校内)

**内容** 実践報告 ~ 池田中学校区MTPの取り組み ~  
笠井 賢治氏 (池田中学校 校長)

記録映像上映 ~ 池田中学校区MTP軌跡 ~  
それは、『生徒の声を聴こう』からはじまった

特別講演 ~ 学校を核にまちづくり ~  
岸 裕司氏 (秋津コミュニティ顧問)

シンポジウム ~ 学校と地域が協働する、新たな学校づくり ~

コーディネーター 野口 克海氏 (大阪教育大学 監事)

パネラー 前川 喜平氏 (文部科学省 大臣官房長)  
佐々中雄司氏 (大阪府教育委員会 首席指導主事)  
小国 喜弘氏 (東京大学 准教授)  
岸 裕司氏 (秋津コミュニティ顧問)  
栢木 修氏 (池田中学校 教頭) 他、

**主催** 池田市教育コミュニティづくり推進連絡会・池田中学校区MTP・池田市教育委員会

### 池田中学校区MTPが、文部科学大臣賞を受賞しました

昨年11月に、池田中学校区MTPが、文部科学大臣賞をいただきました。受賞部門の正式な名称は、「平成23年度 優れた『地域による学校支援活動』推進」というものです。この部門は今年度で新設されたものですが、地域と学校が一体となって子どもの教育を支えていく仕組みを、今一度作っていくことの必要性和重要性を感じます。「ちょっと学校に力を貸してください」という呼びかけから始まり、学校に協力して下さる多くの保護者と地域の皆様の善意と支援がこのように表彰されましたことを、とても嬉しく、喜ばしく思います。

### MTPとは…



ご進行中のみならず、  
夢を育てる学校創りに協力してください。

池田市立 池田中学校 MTP 募集します

池田中学校 MTP 事務局  
1960-0027 池田市上池田1丁目6-17号  
TEL 751-4187 FAX 751-4297  
http://www.school.mede.osaka.jp/mtpde/

今から5年前、2年生が行う職場体験学習が、地域の大人の方とコミュニケーションを築く良い機会になると考え、体験先を校区内に絞って実施したところ、予想以上に良い効果が見られました。それまでも、多くの卒業生やPTA経験者が学校に協力して下さっていましたが、教職員・保護者・地域の皆様が、もっとつながって子どもたちの成長を応援すれば、もっと子どもたちの笑顔を増やすことができると考えて、2008年度より『池中マイタウン・プロジェクト(MTP)』を立ち上げ、「ふれあい・人権」、「社会」、「文化」、「自然」、「学力」、「健康」という6つの分野で、学校行事、職場体験、進学、国際理解、校内緑化、学習サポート、クラブ活動の推進の他、子どもたちに関わるあらゆるサポートを協働して行ってきました。また、昨年度からは、池田中学校区全体に取り組みが広がり、特に、保育園・幼稚園・小学校・中学校の連携が深まりました。

これからは、「校区全体で、子どもたちの育ちを応援しよう」、「子どもも大人も毎日笑顔で過ごしていける住み良い街づくりをしよう」という気運が、もっともっと高まることを願っています。

池田中学校区MTP活動にご協力いただける方は、池田中学校までご連絡ください。

地域の皆様へ協力をお願いするために作成した、MTPの初代ポスター。これを見て、多くの方がご協力くださいました。

MTP  
大人の  
クラブ活動



## 珈琲研究会

~自分の味を探す旅~

が、スタートします。  
くわしくは、巻末をご覧ください。

# 学校園と 地域とのつながり

池田中学校区は、古くから商工業の街として発展してきたことと、池田市が大切にしてきた、地域性を重視した教育施策により、昔から学校園と市民のつながりが深い地域です。各学校園で行われている、さまざまな取り組みや活動をご紹介します。

## さくら幼稚園

さくら幼稚園では、本年度、「人とのかかわりを深め、心豊かな子どもを育てる」という研究テーマのもと、コミュニケーション力の育成に取り組んでいます。

本園の子どもたちは、池田小学校、五月丘小学校、呉服小学校・細河小学校区など、広範囲から通園しています。

子どもたちが、日々生活する地域とのかかわりを大切に、保育の中にも五月山緑地や辻ヶ池公園、五月山文化センターへの園外保育や、池田市消防本部への見学、地域の小・中学校との交流など、様々な人とのかかわりも広げながら、地域とのつながりを大切に充実した保育活動を行っていきたくと考えています。



池田中学校でのお花見

## 中央保育園

中央保育園では、「世代間の交流」として、池田地区福祉委員や更生保護女性会の方々と、年間を通して交流しています。

園児が高齢者のつどいに参加して、合唱や合奏を披露したり、園に来て頂き、園庭で栽培した野菜を使って一緒に調理や食事をする、「食育」にも協力していただいています。また、季節の行事にも参加していただいています。

地域の方々との交流は、子どもたちが人として大きく育ち、人として生きる力を身につけるために、欠かす事ができないものですから、これからも、人と人の「心のふれあい」を大切に、取り組んでいきたいと考えています。



一緒に調理して、一緒においしくいただきます。

## 呉服保育所

呉服保育所では、今年、年長組が沖縄の歌や踊りや劇に取り組みました。運動会で、赤と黒の衣装を身に付けた年長組が、小さいながらも元気いっぱい打ち鳴らす太鼓の音は大迫力で、地域の皆さまや保護者の方を魅了し、楽しい運動会となりました。

その後も、地域の老人福祉施設との交流や、地域開放に来られた子育て中の親子の皆さまとのミニ運動会にも「エイサー」を披露し、たくさんの拍手で喜んでいただきました。このことを通じ、保育所を地域の方に知っていただく良い機会になったのではないかと考えています。

他の取り組みとしては、栄町での「アートフェスタ」に参加させてもらったり、地域の小学生や中学生に「保育体験」をしていただいたりなどもしました。地域の皆さまも、ぜひ、呉服保育所を覗いていただければと思います。



年長組の「エイサー」が、地域でも活躍!

## 生徒は街へ、人々は学校へ

～池田中学校区MTPの挑戦!～

池田中学校 校長 笠井賢治

池田中学校区では、子どもたちの懸命な育ちを支援するヒューマンネットワークを創ろうと考え、「生徒は街へ、人々は学校へ」を合い言葉に、「池田中学校区MTP」という取り組みを行っています。「具体的・日常的・継続的」に、子どもたちや保護者・教職員・地域の人々が柔らかくつながって、生き生きとした学校づくり、街づくりを目指します。あなたも今日から、ちょっと学校に力を貸してくださいませんか。

## 池田中学校

土曜の朝の池中には、クラブ活動に参加する生徒たちに混じって、いろいろな人が登校します。

DJ(土曜授業)のサポートをしてくださる学生さんや保護者と地域の方々、絵画教室や池中ハートネット(編み物教室)に参加する3歳~80歳代までの方々、畑プロジェクトの方々、花壇の整備をしてくださるの方々…。グラウンドや体育館では運動部の生徒が汗を流し、それぞれの活動を応援するように、吹奏楽部が練習するメロディーが、BGMとなって学校を包み込みます。

今では当たり前前の光景となりましたが、土曜日の朝の池中は、小さなコミュニティとなっているような活動が行われる、素敵な場所になるのです。



一緒に収穫を喜んでいます

## 池田小学校

池小では、毎年7月初旬に「平和のつどい」を行っていますが、今年度は校舎の耐震工事にともない運動場が半減し、どうなることかと心配しました。しかし、皆さまのご協力のおかげで例年にも増して、賑やかな「平和のつどい」ができました。

会場設営や模擬店の運営では、今年度も歴代PTA会長さんや、多くの保護者の皆様にご協力いただきました。保護者ボランティアの皆さんは、暑い中、6年生や中学生のボランティアとともに、参加した子どもたちを楽しませてくれました。フィナーレに使う900個の風船は、時間に間に合うようにと、PTAのOB・OGの方々や先生たちが、平和のつどいのオープニングの前からヘリウムを充填してくださいました。

フィナーレで子どもたちは、その「平和へのメッセージ付き風船」を大空に飛ばすことができ、保護者の皆さんとともに大満足の様子でした。

「平和」について考えるこの日。PTAの皆さまには、たいへんご苦勞をおかけしましたが、「楽しかった!」という子どもたちの声があちこちで聞かれました。なお、今回の収益の一部は、東日本大震災で被災された方々へ義援金としても寄付させていただきました。



大空に舞う「平和へのメッセージ付き風船」

## 呉服小学校

呉小では2学期に、児童・家族・先生・地域の方々が集い、ともに楽しむイベントがあります。スリッパ飛ばしやコインピックなどのゲームと喫茶、綿菓子、フランクフルトやチヂミのコーナーもあり、子どもたちがゲームやコーナーを駆け巡る「呉服まつり」と、自分で餅をついたり丸めたりしたあと、つくたての餅を、きな粉やしょうゆで食べる「餅つき大会」です。

「呉服まつり」は20回、「餅つき大会」は30回と回数を重ね、いずれも呉小の伝統的な教育的行事となっています。



みんなで協力したお餅の味は格別です。

### 第4回

## MTP フェスティバル

池田中学校区の学校園が連携して、「子どもも大人も楽しくなる、住み良い街をつくりたい。その第一歩は顔見知りになること!」をテーマにしたお祭りが、3月11日(日)に呉服小学校で開催されます。

当日は、池田小・呉服小・池田中による吹奏楽の演奏や、子どもや有志によるステージの他、模擬店やフリーマーケットなどが行われます。

今回は、池田商工会議所青年部+池田商工業青年会+社団法人池田青年会議所+IKEDA collection 実行委員会 の池田青年4団体が、東日本大震災の復興支援を目的に結成した「池田青年連合ATLUS」として、MTPフェスティバルを共催してくださることになりました。くわしくは、来月号に掲載いたしますが、たくさんの顔見知りができるように、多数のご来場をお待ちしております。



## DJ(土曜授業)

つまずきやすい単元を復習し、生徒に理解してもらうことを目的として実施しています。授業は教職員が行いますが、生徒個々の理解度を上げるために教員志望の学生や地域の皆様がサポートしてくださっています。

DJには、小学算数の復習をするDJB(土曜授業ベースック)や、英検3級合格を目指すETC(英検トライコース)、高校受験対策のジョイントDJがあります。(対象：池中生)

### 【2月の予定】

- ETC(英検トライコース) 4日, 18日 午前8時30分～  
場所：池中多目的ルーム 内容：英検2次試験対策
- ジョイントDJ(高校受験対策)  
4日：私学入試直前対策, 18日：公立前期選抜入試直前対策  
3月10日 後期選抜入試直前対策  
時間：午前8時30分～10時30分 場所：理科第1教室

## MJK(未来人権教育フォーラム)

「どのようにしたら、子どもたちに解りやすい授業ができるか」を、人として、教師としてのコミュニケーション力向上と、授業力向上のため、さまざまなテーマで毎月1回の勉強会を行っています。

内容は、『黒板にきれいな文字を書く』、『3分間で人に分かりやすく話を伝える』、『よのなか科授業についての検討会』、『聞き取りやすい声の出し方・発音について』、『数学の模擬授業についての検討会』などです。  
参加者は、教員・学校事務職員・保護者・地域の方などさまざまで、どなたでも参加していただけます。

## 恒例！合格祈願餅つき大会

池中おやじ倶楽部主催で、恒例の『合格祈願餅つき大会』が開催されます。おやじ倶楽部は、親子と一緒に活動する機会を作ることと、親同士のつながりを作ることを目的として、リクリエーションや校内保全活動を行っています。活動終了後は一緒にご飯を食べたりして、親睦会も行っています。名称は「おやじ」ですが、「おふくろ」の参加も大歓迎です。

日時：2月5日(日) 午前8時30分～  
場所：池中調理室 & 調理室前中庭

## 畑から育つもの

今から2年前、地域の方々子どもや教職員と交流できるようにと、池中の中庭に小さな東屋が建ちました。  
ある日、「東屋の前にある荒れ地を畑にしたら」という案が飛び出し、近隣の5家族10人が集まって、開墾作業が始まりました。  
手作業で石を取り除き、はびこっていた雑草を根から掘り起こし、土が整ってくると肥料を提供してくださる業者さんが現れ…。  
大変な作業でしたが、2ヵ月後には、荒れ地が見事な畑に生まれ変わりました。

この畑に通う人たちの子や孫は、みんな池中生でしたから、畑のそばを通ったり、東屋でくつろぐ子どもたちと交流することは、心が和むひと時になっています。

お互い顔見知りになると、「ほら、昼休みが終わるよ～！」、「ちゃんとズボン履かなアカンよ～！」などと、つい、近所のおばちゃんになってしまいますが、子どもたちもそんな言葉を嫌がらずに笑顔で応えてくれる姿を見ると、どれだけ時代が変わっても、心を込めていれば必ずつながるんだと、嬉しくなります。

私たち自身は畑に通うことで、太陽と土の恵みに心も身体も癒されますが、子どもたちの心にも、何か良い物が芽吹いてくれたら…などと思ったりもします。

畑では、玉ねぎやお豆たちが冬の寒さに耐えながら、暖かくなるのを待っています。子どもたちが巣立って行く春は少し寂しくもありますが、門出の春と違い、今から楽しみです。

池田中学校区MTPへのご協力のお申し出や、活動に関するご質問・お問い合わせは、池田中学校区MTP事務局 栢木(かやき)までお願いします。

## 珈琲研究会

MTPの「大人のクラブ活動」として、「珈琲研究会」が新たに発足します！美味しいコーヒーの入れ方から始め、いろんな種類のコーヒーを試飲し、自分好みのコーヒー豆かブレンドを探す小旅行です。

今回は、『ペーパードリッップを使った美味しいコーヒーの入れ方』を中心にを行います。今後は毎月1回ずつ開催する予定です。

日時：2月22日(水) 午後1時～2時 (30分前より受付を開始します)

場所：池中MTPの部屋

費用：1000円

講師：加藤健一 (ロッソビーンズカフェ, 栄町3-14, tel.751-3394)

※参加ご希望の方は、当日、池中正門よりお入りいただき、正面玄関受付でお申し込みください。

## 絵画教室

絵画教室は、子どもから大人まで、楽しみながら自由に絵を描く、市民のクラブ活動です。個人と個人の価値観を尊重し、「絵は創るもの」を理念に活動しています。

小学生以下のお子様には、PISA型を意識して、「物の見方」と「発想」を刺激し、楽しみながら集中力が高まるように取り組んでいます。

大人の方には、デッサン・構図・色彩構成・技法など、「絵が苦手」とおっしゃる方にも楽しんでいただけるように、基礎から本格的なところまでをアドバイスしています。

参加者は3歳～80歳代と幅広く、週に1度の小さなコミュニティにもなりつつあります。参加・見学ともに自由にしておりますので、興味のある方は、お気軽にお越しください。

### 【2月の予定】

4日, 18日, 25日の土曜日 午前10時～12時まで

場 所：池中美術室

持ち物：初めての方は、B～2Bの鉛筆と消しゴムをご持参ください。

費 用：無料

講 師：横山泰介 (画家) 上山みどり (絵本作家)

## MTPができたわけ (連載第1回)

池田市公益活動登録団体マイタウン・プロジェクト、サプリーター 池田中学校 前校長

横山 泰介

私は10数年前、文科省海外派遣でアメリカに3週間ほど研修に行ったことがあります。その時、訪問先だったアナポリス市の公立小学校で見た光景が、今も忘れられません。

私たち日本からの訪問者の世話をしてくれたのは、地域のボランティアのお母さんたちでした。皆さん普段着で、大変フレンドリーに接していただきましたが、彼女たちは、私たちに日本の教育について、沢山の質問をしてこられました。

学校内を見学していると、ある教室では、地域に住んでおられる銀行の頭取が、子どもたちに金融の授業をされていました。その学校では、子どもたちが主体となり、『子ども銀行』を開設し、運営していると聞いたのが、私の頭にずーっと残っていました。

その瞬間から、『子どもに本物と出会わせたい』と言う気持ちが強くなりました。

私は、教員になってからの30年余り、子どもたちと教員だけで作られる学校に、何か限界を感じていました。そんな訳で、再び池中に来てからは、地域の人たちの力を借りることに躊躇することは何もありませんでした。私にとってラッキーだったことは、20数年前、たった5年間だけでしたが、池中で美術の教諭をしていた頃の生徒さんが、池中生の保護者になっていたことです。彼らの多くが私の思いを理解してくださり、私も信じられないぐらい、学校に協力してくれました。

私が彼らにした最初のお願いは、2人の在学生の就職問題でした。3年生になった時から相談に乗ってもらい、卒業後に就職させてもらいました。その2人は最初の給料日に、私に帽子をプレゼントしてくれました。今も私の大切な宝物です。

2007年から、子どもの幸せを願い、地域の大人と協働して行う取り組みを、『マイタウン・プロジェクト(MTP)』と呼ぶようになりました。名付け親は、教頭の栢木先生です。(つづく)

文部科学省や、  
大阪府教育委員会や、  
池田市教育委員会や、  
池田中学校区MTPが推進している、

## 教育コミュニティ

を  
ご存知ですか？

古墳や遺跡、文化財などが数多くあり、長い歴史を持つ池田市の中でも、池田中学校の校区は、街道の要衝として、江戸時代にはコミュニティ(地域社会)が形成されていましたので、学校の設立も全国的に早い段階で行われ、明治6年(1873年)に、池田で初めての公立学校となる池田第一小学校(現・池田小学校)が開校しました。子どもの学び舎が出来たことを当時の市民はとて喜び、「家に不学の人がなく、風俗を豊かにし、文化の向上が続くように」と願いを込めて、学校に登竜門が建てられたそうです。最近では、過疎化や少子化によって、PTA活動に支障が出ている学校もあるそうですが、池田中学校区では、139年前に建てられた登竜門の志しを受け継ぐように、今も学校に協力して下さる保護者や市民がたくさんおられます。

国や大阪府では

大阪府教育委員会では、平成12年度より市町村教育委員会と連携しながら、政令市を除く府内全ての中学校区で「教育コミュニティ」づくりの推進組織である「地域教育協議会(すこやかネット)」を立ち上げ、地域の子ども同士・子どもと大人・大人同士が交流し合い、「顔と名前的一致する人間関係」を育む中で、0歳から15歳の子どもの連続した成長を見据えた取り組みに着手しました。平成18年には教育基本法の改正で、「学校、家庭及び地域住民等の相互の連携協力」が新設されましたので、学校・家庭・地域の協働が全国的に始まり、大阪府教育委員会では「教育コミュニティづくり推進事業」として、『学校支援地域本部』・『おおさか元気広場』・『家庭教育支援』を推進しています。

池田市では

池田市の学校園では、昔から校区の地域性を大切にされた学校運営が行われてきましたので、学校に協力的な保護者や市民がたくさんおられますが、学校と地域市民との繋がりを更に向上させるため、現在では各中学校区ごとに「教育コミュニティづくり推進委員会」が設置され、学校・家庭・地域が一体となり、家庭や地域市民の協力のもとで子どもを育てることを目的に、地域と共にある学校づくりに取り組んでいます。

池中では

池田中学校では、「学校(子ども)を核にした街づくり【学校にカーテンは要らない】」を目指して、池中校区MTPという活動を行っています。近年、池田市内でも近所付き合いを始めとするコミュニティが減っていますので、学校(教職員)が保護者や地域市民と協調・協働して様々な活動を行い、その結果、学校に来られる地域市民が多くなれば、日常行われるコミュニケーションの構築は子どもたちの豊かな成長につながりますから、「学校(教職員)はカーテンを開けて学校の様子が地域からよく見えるように努め、地域の皆様が安心して入って来てもらえる学校づくり」を進めていきます。

### 教育コミュニティづくりの成功例

## 学校を核にまちづくり

～ 秋津コミュニティの実践 ～

2月26日に開催されました「学校と地域の総合的な活性化」シンポジウムで、教育コミュニティづくりのパイオニアとして全国的に活躍されている千葉県習志野市秋津コミュニティ顧問の岸裕司氏に特別講演をしていただきました。

千葉県習志野市にある市立秋津小学校には、『秋津コミュニティ』という、学校施設を地域市民に開放し、学校を基地にした生涯学習の場があります。

今から30年ほど前に出来た「秋津」という新興住宅地に移り住んだ岸さんは、お子さんが新興住宅地の誕生に合わせて出来た小学校に通うことになり、小学校のPTA活動をしていく中で、新興住宅地によく見られる「住民同士のコミュニケーションの少なさ」を感じて、秋津コミュニティを立ち上げられました。

全国に数多くある、かつての新興住宅地では、世帯の高齢化によって、過疎化や少子化、空洞化などの現象が問題になっていますが、コミュニティの機能によって子育て環境が良くなった秋津地域では、UターンやIターンで若い世帯が増え、秋津に住んでいる子どもたちは、歴史がまだ浅い秋津を「自らの故郷」として意識している率が高いそうです。

「学校を核にしたまちづくり」の実践者で多くの著書を出し、全国で講演や後進の指導をされている岸さんは、今回の講演で、自らの体験を基にした方法論を教えてくださいました。

池中校区と秋津では、街の成り立ちや地域性の違いもありますから、そのまま全てを取り入れることは難しいと思われそうですが、「子どもを鎧(かすがい)にしたコミュニティの構築」という点では方向性が全く同じです。「教育のまち池田」が全国的に知られるようになってからは、秋津と同様に子育てのためのUターンやIターンによって、世帯数と子どもの数が増加していますから、参考にできる要素は積極的に取り入れたいと考えています。昨年、池田中学校区MTPでは、池田中学校にある空き教室を利用して「MTPの部屋」を作りました。現在までの活動は2月にスタートした珈琲研究会だけですが、今後は生涯学習の場として、憩いの場として活用し、学校を核としたまちづくりを少しずつ広げていきたいと考えています。

### ● 秋津コミュニティが行った教育コミュニティづくりの実践方法

- ① 子縁(こえん・子どもの縁)で、人と人、学校と地域を繋ぐ
- ② 学校の授業やクラブ活動を、住民も一緒に楽しみながら生涯学習
- ③ 学校を住民と共用・開放することで、放課後も休日も生涯学習
- ④ 課題(問題)は、改善・向上するチャンスと捉える社会教育の手法
- ⑤ 諸活動の企画では、関わり合う双方にメリットが生まれるように意識して仕組む
- ⑥ 継続性を意識して持続させる

## ① 前校長・横ヤンが定義した学力像

学力は人間関係をつくる力だと定義したのは、誰だろう、MTPの生みの親である池田中学校前校長の横山泰介さんでした。横山さんは今から6年ほど前、現在教頭をしている栢木先生と相談しながら、池中で目指す学力は、人間関係をつくる力なんだ、と保護者の人たちに説明しました。さらに横山さんは池中の先生たちにも人間関係づくりにつながる力を授業でつけてくださいと、お願いしたわけです。

横山さんがこの定義を思いついたのは、長年の教師体験からだったのだらうと思います。いろんな「ごんたくれ」が立派な大人へと育っていく、その様子を見ていて、子どもが成長する過程で必要なのは、人間関係をつくる力なんだと悟ったのでしょう。学校で行う、国語・算数(数学)・理科・社会・体育…といった教科はすべて人間関係をつくる力に役立つはずなんだ、そして人間関係づくりに役立つように授業をしなければいけないんだという思いが、その定義には込められていました。

## ② なんと、文部科学省の先を行っていた？

この定義は、今から考えてもすごい定義だなあと私は感心してしまいます。というのは、近年、教育学の中で言われるようになった、キー・コンピテンシーという考え方と非常に近いように思うからです。

キー・コンピテンシーという言葉をここで少し説明しておきましょう。この言葉は、OECD(経済協力開発機構)が世界の若者が身につけるべき力として2000年頃に提唱しました。文部科学省がようやくこの概念を取り入れるのは、2011・2012年度から実施される新学習指導要領からです。キー・コンピテンシーと言われているのは、次のような3つの力です。

(1)自律的に活動する力 (2)道具を相互作用的に使う力 (3)異質な集団で交流する力

自律的に活動する力というのは、将来の見通せない世界において、敢えて大きな展望を持ちながら自らの人生計画を設計し、それに向かって突き進むことの出来る力です。道具を相互作用的に使う力というのは、様々な環境の変化にあわせて、言語・数学・科学・技術などを適切に使いこなしていく力です。異質な集団で交流する力とは、他人と良好な人間関係を作ったり、協力したり、チームで働く能力を指しています。

池中の人間関係をつくる力というのは、主に(3)に当たるわけです。OECDが、生き馬の目を抜くような競争社会でも生き抜けるような力として(1)や(2)を強調しているのと比較すると、横山さんたちが考えたのは、もっと助け合って生きていける社会をつくるための学力なんでしょう。助け合うことでそれぞれの人生がうまくいくと同時に、皆が幸せになっていけるような、そんな学力をつけていきたいと思います、というのがその学力の定義の根本な訳です。

## ③ MTP活動の目的が「学力づくり」だというわけは？

だとしたら、MTPにおいても、学力づくりはとても大事なのではないのでしょうか。詩吟を楽しみ、コーヒーの飲み方を学び、キムチの作り方を学び、絵の描き方を学び、野菜の育て方を学ぶ。そのような活動の中では、詩吟やコーヒー豆、美術の知識が増えるとともに、知識を媒介として、様々な仲間が出来ていく。そして仲間がワイワイやるなかに、人生の味わいもまた豊かになっていく。そんなコミュニティを作っていくためには、みなで人間関係をつくる力を楽しみながら高めあっていくことが必要になるでしょう。

人間関係をつくる力を皆で高め合うMTP活動の中心には、小学生・中学生の学力づくりがあることは言うまでもありません。次の社会をつくっていく小学生や中学生が、様々なことを学ぶのは、本来、いい大学に入っていい就職を得るためでも、さらには競争社会を勝ち抜いて金持ちになるためでもないはず。日本国憲法13条には、「幸福を追求する権利」が規定されており、子どもたちがそもそも学ぶのは、幸せな社会をつくるためであり、幸せになる力をつけるため、であります。そのような子どもの学びを成立させるためには、どうしたら幸せになることができるのか、幸せな社会を作ることができるのかを大人たちは背中で見せる必要があるはず。だから、MTP活動の重要な活動のなかには、小中学生の学びをサポートすることが含まれているのだらうと思うのです。

## ④ ドリルだけの学校なんてクソくらえ？

最後に、このところ、全国どこでも、ドリル学習が増えているように思います。基礎学力の低下が新聞で度々取り上げられ、そして全国学力テストで都道府県単位の順位が発表されることによって、不安が煽られている現状があります。特に大阪府は全国での順位が低いので、ドリル学習に力が入られてしまっただけではないかと心配しています。

私はドリル学習自体に必ずしも反対ではありません。知識をより多く獲得することは、本来、よりよい社会を建設するための知恵を獲得することともつながっているはずだからです。でも、テストの成績を上げるための目的でドリル学習をしても仕方ないと思うのです。よりよい社会をつくるために、人々が幸せになるために、平たくいえば、よりよい人間関係をつくるために、なぜその勉強をする必要があるのかが明確にされている必要があると思います。ぜひ、学校の先生方には、人間関係をつくる力をつける授業を展開して欲しいなと思っています。

夕テ・ヨコ・ナナメの  
やわらかネットワーク

～池中学校区MTPのこだわり～

池田中学校 校長 笠井 賢治

最近、少しずつ名前を知ってもらえるようになってきた「池中MTP」ですが、実は、2年前から「池中校区MTP」という言い方を、よくするようになってきました。

一人でも多くの地域の方々には池中生を知ってもらおう。そのために、職場体験も校区内でやろう、祭りがあれば有志でヤキソバ焼きに行こう、吹奏楽の出前演奏もやろう、バス停に花を飾りにも行こう。その一方で土曜授業を開いて地域の人々に学校に来てもらおう、いっそのこと校内に地域の畑を作っちゃえ、絵画教室や語学教室も開こう…これが池中MTPです。池中と地域とがつながっていく、いわゆる「ヨコ」の広がりです。

そして、今はこれを「夕テ」にも広げようと考えています。多くの子どもたちが、保育所・幼稚園・小学校・中学校と、一つの地域の中で育っていくのなら、保・幼・小・中がしっかりつながっていけば、もっと豊かな子育てができると思うのです。だって、中学校の先生が、小学校時代から、その子どもの顔やノリを知っているって、めちゃくちゃ大きいですよ。

池田市では去年から、小中一貫教育の研究を全ての中学校区で展開し始めました。でも、私たちは、ただなんとなく形だけでつながるのではなく、切実な課題、たとえば「この子が小学生の時は、どんな体制で指導していたのやる?」「この親御さんにはどんな物言いしたらわかってもらえるのやる?」というように、ほんとに必要な内容で、つながりをつくっていきたくて考えています。とりあえず、今年は、池中の土曜授業に、毎回、校区の小中学校の先生方が顔を出してくださるようになりました。小さいけれどもとても大きな一歩でした。

こうして、夕テ・ヨコの関係がはっきりしてくると、その結果として生まれてくるのが、「ナナメの関係」です。「直の関係」である先生や親の言うことは素直に聞けなくても、近所のおばちゃんに言われるとすっと納得できる。そんな関係です。実は、これによって、学校は救われていくのです。夕テ・ヨコ・ナナメが、「具体的・日常的・継続的」に柔らかくつながっていけば、きっと素敵な「学校」、素敵な「街」が出来上がっていくと思います。

# 学校と地域の 総合的な活性化

## シンポジウムのご報告

2月26日(日)・池田市立くれは音楽堂

このシンポジウムでは、「教育コミュニティづくり」のモデルケースとして、池田中学校区MTPの実践報告と、教育コミュニティの先駆けとして活動を続け、その成功例として全国的に取り上げられている秋津コミュニティの手法の紹介、そして、池田中学校区MTPと秋津コミュニティの事例を参考にした「学校と地域が協働する新たな学校づくり」をテーマに、教育コミュニティの必要性や有効性について、有識者によるパネルディスカッションが行われました。



プロジェクターと記録映像により、池田中学校区MTPの取り組みを説明する、池田中学校校長の笠井賢治氏

「池田中学校区MTPの取り組み(実践報告)」では、笠井氏が、学校側からの発信で始まったMTPの立ち上げから現在に至るまでの経緯と活動内容の他、事例を元に、学校が地域とつながったことで生まれたメリットなどを説明し、別枠で掲載しているMTPの次のステップについて語られました。

特別講演「学校を核にまちづくり」では、文部科学省「新しいタイプの学校運営のあり方に関する実践研究」指定校委員も務めておられる岸氏が、1面に掲載しています手法を中心に、地域市民側からの発信で始まった秋津コミュニティについて語られました。講演の最後には、ご自身の経験や秋津コミュニティの実践から、学校と地域が協調・協働するには、「できる人が、できる時に、無理無く、楽しく」と、自らも楽しみながら参画することが新しい公共型の教育コミュニティにつながると、池田市にエールを送っていただきました。

パネルディスカッションでは、MTPは学校からの発信で、秋津コミュニティは地域からの発信と、それぞれが違う場所からの発信だが、学校と地域が「子どものため」という理念を共有すれば、結果は同じ方向へ進むことが確認されました。ただ、学校は、外からも学校の中が見えるように壁を取り払い、カーテンを開けようとする姿勢を見せることが、地域と協働するための出発点ではないかという意見もありました。

次に、教育コミュニティが学力や学校に与える影響として、秋津小学校では、先生が授業に集中できるように保護者を中心に協力しているので、学力は習志野市で常に上位にあるそうです。池田中学校では、MTP活動を始める1年前から先生と生徒との人間関係(信頼関係)づくりに取り組んだところ、不登校生徒数が減少し、校内が穏やかになり、生徒が授業に集中するようになったそうです。

子どもの学びの姿勢について、前川氏と小国氏は、近年は上位校を目指した受験勉強に固執しがちとなっているが、子どもたちが「学ぶことの意味」を、「自分の人生のために、自立後の社会生活のために学ぶ」ということが理解できるように、日々の生活の中で、多くの大人が子どもと関わり、それに気付くチャンスを増やすことが大切だと言われました。

最後に野口氏が、「教育コミュニティの根本は、『子どものため』なのだから、子どもたちに、しっかりと、何のために勉強するのか、どんな生き方をするのかを理解してもらい、生きて行くのに、たくましい力をつけてもらいたい。」「子どもを取り巻く環境は、ますます厳しくなっている。ちょっと気を許したら、せつかく良くなっても、ガタガタと崩れる。みんなで本気になって、しんどい子どもを切り捨てることなく、しっかり支える体制が求められています。」として、パネルディスカッションをまとめられました。

学校の中で、先生と子どもが直接関われる時間は、小学校が6年間・中学校が3年間ですが、地域の大人は地域の子どもの成長を、ずっと見続けることができます。池田中学校区MTPでは、学校と地域がつながるきっかけを、これからもたくさん作っていきますので、「できる人が、できる時に、無理無く、楽しく」つながっていただければと思います。



「学校と地域が協働する新たな学校づくり」をテーマに行われたパネルディスカッション

写真左より、

- 野口 克海氏 (大阪教育大学 監事)
- 前川 喜平氏 (文部科学省 大臣官房長)
- 佐々中雄司氏 (大阪府教育委員会 首席指導主事)
- 岸 裕司氏 (秋津コミュニティ 顧問)
- 小国 喜弘氏 (東京大学 教育学研究科 准教授)
- 栢木 修氏 (池田中学校 教頭)

平成23年度池田中学校区MTP活動にご協力・ご参加くださいました皆様に感謝申し上げます。  
平成24年度も、何卒、よろしくお願い申し上げます。

## DJ(土曜授業)

池中生を対象に、授業や家庭学習でつまずきやすい単元を、生徒に理解してもらうことを目的として、土曜日の午前中に不定期で実施しています。授業は教職員が行いますが、生徒個々の理解度を上げるために、池中校区の先生や教員志望の学生、地域の皆様がサポートしてくださっています。通常の土曜授業の他、小学算数の復習をする土曜授業ベシックや、英検合格を目指す英検トライコース、高校受験対策のジョイントDJがあります。平成24年度の予定は、決まり次第、生徒にプリントでお知らせします。

## 珈琲研究会 《自分好みのコーヒーを探す小旅行》

先月の『ブラジル編』に続きまして、今月のテーマは『エチオピアモカ編』です。ミディアムロースト・シティロースト・フレンチローストと、3種類の焙煎方法で、同じ豆でも「味や香りがこんなに違うんや!」というところを味わっていただきたいと思えます。

日時：4月25日(水) 午後1時～2時

場所：池中MTPの部屋 (3号館1F)

対象：興味のある方 (池中校区以外にお住まいの方も気兼ねなくお越しください)

費用：1000円

講師：加藤健一 (ロッソビーンズカフェ、栄町3-14、tel.751-3394)

※参加ご希望の方は、直接会場までお越しください。

※参加者多数の場合は2回に振り分けさせていただく場合がございますが、ご了承いただけますようお願い申し上げます。

## 絵画教室

子どもから大人まで、楽しみながら自由に絵を描く、市民のクラブ活動です。個人と個人の価値観を尊重し、「絵は創るもの」を理念に活動しています。小学生以下のお子様には、PISA型を意識して、「物の見方」と「発想」を刺激し、楽しみながら集中力が高まるように取り組んでいます。大人の方には、デッサン・構図・色彩構成・技法など、「絵が苦手」とおっしゃる方にも楽しんでいただけるようにしています。

参加・見学ともに自由にしておりますので、興味のある方は、お気軽にお越しください。

場所：池中美術室 (2号館3F)

対象：興味のある方 (池中校区以外にお住まいの方も気兼ねなくお越しください)

費用：無料

講師：横山泰介 (画家) 上山みどり (絵本作家)

※参加ご希望の方は、1号館1Fでスリッパに履き替えて直接会場までお越しください。

### 【4月の予定】

14日、21日、28日の土曜日 午前10時～12時まで

※美大や芸大への進学に興味があるが、どんな勉強をすれば良いのかわからずに困っている池中出身の方は、横山先生が相談に乗りますので絵画教室の時間帯に母校へ遊びにきてください。

※美大や芸大の在学や卒業生、もしくは、教員志望の大学生で、報酬がなくても絵画教室の手伝いをしたいと思ってお越しの方は、絵画教室の時間帯に、お気軽にお越しください。

## その他の活動予定

平成24年度も、「池中ハートネット(編み物・手芸)」・「ハングル教室」・「詩吟教室」・「ちびっこ柔道クラブ」・「キムチ漬け教室」などを実施する予定です。くわしくは、本紙や学校から配布されるプリントか、ホームページをご覧ください。

### ■ 池田市立池田中学校のホームページ

<http://www.school.ikeda.osaka.jp/ikedajhs/>

### ■ いけだNPOマイタウン・プロジェクトのホームページ

※2012年4月中旬にオープン予定

<http://www.rokudaiyu.com/ikedanpo-mtp/>

## MTPができたわけ

(連載第2回)

池田市公益活動登録団体マイタウン・プロジェクト サプリダー  
池田中学校 前校長

横山 泰介

ここ数年、池田市内で行われるボランティア団体主催のお祭りなどには、「池中の焼きそばの屋台」が当然のように出ているのですが、これは、子どもたちに本物と出会わせたいという気持ちからやり始めたことです。

20数年前、私が細中にいた時、子供たちと募金活動をするこになりまして(HOWPの会)。募金活動だけではしんどいので、お店も始めたんです。やり始めると、大きな鉄板やお鍋を寄付してくださる方のご厚意もあり、道具がたくさん集まりました。今、池中に有るごっつい鉄板や道具類は、私が転勤で池中に来る時、その一部を頂いてきた物です。

20年ほど前、『みんなではばぁ〜あ!』という催しに、細中からボランティアで行った時、「なんで俺が行かなアカンねん」と言っていたA君でしたが、いざ、行ってみると、「俺、こんなたくさん、障がいを持った人たち見たん初めてや」と言って、それからは、毎回ボランティアに参加してくれるようになりました。

今、MTPに名前を連ねてくれている20代前半の10人ほどは、細中で私と一緒にボランティアをしてくれた人たちです。彼らの内の一人は、大学の4年間、ボランティアで池中の生徒サポーターをしてくれました。

彼は今、大学の職員として働いていますが、彼と、彼の彼女の夢は、「塾をしたい。それも、池中の『まな部屋』のような塾をすること」だそうです。

そんなことを聞くと、ものすごく嬉しくなります。

人と人が、真剣に向き合って生きていくことで、様々な「もの」が生まれてきます。そんな「もの」を、子どもたちに感じてもらいたいと願っています。(つづく)

## 皇治後援会ニュース

昨年、池中出身のキックボクサー田中宏治さん(リング名:皇治)が、SFKキックボクシングジムに移籍したことをきっかけに、池中OBが中心となって『皇治後援会』が発足しました。

現在、皇治は日本スーパー・フェザー級5位で、これからの試合はランキング戦になります。

世界チャンピオンを見据え、まずは日本のチャンピオンベルトを目指して頑張っている皇治を応援して下さる方は、ぜひ、後援会にご入会ください。後援会への入会申込やお問い合わせは、池中の三宅先生までお願いします。なお、お知らせなどをお送りする通信費として、年会費2000円をお願いしています。

《皇治の試合の予定》

4月1日(新宿フェイス)、4月28日・タイトルマッチ(新宿フェイス)

# map



○阪急 池田駅より 徒歩15分

○池田駅より、阪急バス  
辻ヶ池公園前下車 徒歩5分

池田中学校区MTPへのご協力のお申し出や、活動に関するご質問・お問い合わせは、池田中学校区MTP事務局までお願いします。

# 池田中学校区教育コミュニティづくりに関する意識調査

この調査は、池田中学校マイタウンプロジェクト(MTP)の活動を発展させるための資料を集めるために行うものです。お忙しい中、申し訳ございませんが、ご協力をお願い申し上げます。

2012年1月 池田市教育コミュニティづくり推進連絡会

《《 当てはまる回答の番号に○を付けてください 》》

なお、答えにくい質問や答えたくない質問については、お答えいただかなくても構いません。

はじめに、池田中学校MTPについてお伺いします。

質問

1

この調査以前に、池田中学校MTPの名前をご存知でしたか？

1 知らなかった

2 詳しくは知らなかったが、名前だけは知っていた

3 活動内容まで知っていた

質問2に進んでください

質問1-bにお答えの上、質問2以降にもお答えください

質問

2

池田中学校MTPでは、次のような活動を行っています。ご存知でしたか？

a. 職場体験学習 1 知っていた 2 知らなかった

b. 福祉体験学習 1 知っていた 2 知らなかった

c. DJ(土曜授業) 1 知っていた 2 知らなかった

d. ETC(英検トライコース) 1 知っていた 2 知らなかった

e. MTPフェスティバル 1 知っていた 2 知らなかった

f. よのなか科 1 知っていた 2 知らなかった

g. MJK(授業研究会) 1 知っていた 2 知らなかった

【質問1-b】

池田中学校MTPのことを、どこで知りましたか？

当てはまるもの全てに○を付けてください。

- 1 ポスター
- 2 池田中学校のホームページ
- 3 PTAや市の広報誌
- 4 チラシ
- 5 知人・友人から
- 6 新聞やテレビなど
- 7 その他  
(具体的にお書きください)

質問

3

池田中学校MTPが行っているこれらの活動に、ボランティアとして参加することに関心はありますか？

a. 職場体験学習 1 関心がある 2 関心はない 3 わからない・どちらとも言えない

b. 福祉体験学習 1 関心がある 2 関心はない 3 わからない・どちらとも言えない

c. DJ(土曜授業) 1 関心がある 2 関心はない 3 わからない・どちらとも言えない

d. ETC(英検トライコース) 1 関心がある 2 関心はない 3 わからない・どちらとも言えない

e. MTPフェスティバル 1 関心がある 2 関心はない 3 わからない・どちらとも言えない

f. よのなか科 1 関心がある 2 関心はない 3 わからない・どちらとも言えない

g. MJK(授業研究会) 1 関心がある 2 関心はない 3 わからない・どちらとも言えない

質問

4

池田中学校MTPでは、生涯学習の一環として、次のような活動を行っています。  
参加されたことがありますか？ また、ご存知でしたか？

a. 絵画教室	1 参加したことがある	2 参加したことはないが、知っていた	3 知らなかった
b. ハングル教室	1 参加したことがある	2 参加したことはないが、知っていた	3 知らなかった
c. キムチ漬け教室	1 参加したことがある	2 参加したことはないが、知っていた	3 知らなかった
d. 着付け教室	1 参加したことがある	2 参加したことはないが、知っていた	3 知らなかった
e. 詩吟教室	1 参加したことがある	2 参加したことはないが、知っていた	3 知らなかった
f. 畑プロジェクト	1 参加したことがある	2 参加したことはないが、知っていた	3 知らなかった
g. 花壇の整備	1 参加したことがある	2 参加したことはないが、知っていた	3 知らなかった
h. 編み物教室	1 参加したことがある	2 参加したことはないが、知っていた	3 知らなかった
i. 皇治後援会 <small>池中出身のキックボクシング選手の後援会</small>	1 参加したことがある	2 参加したことはないが、知っていた	3 知らなかった
j. 子ども柔道教室		2 知っていた	3 知らなかった

質問

5

池田中学校MTPが行っているこれらの活動に、今後参加したいと思いませんか？  
既に参加したことがある方は、今後も参加したいかどうかをお答えください。

a. 絵画教室	1 参加したい	2 参加したいと思わない	3 わからない・どちらとも言えない
b. ハングル教室	1 参加したい	2 参加したいと思わない	3 わからない・どちらとも言えない
c. キムチ漬け教室	1 参加したい	2 参加したいと思わない	3 わからない・どちらとも言えない
d. 着付け教室	1 参加したい	2 参加したいと思わない	3 わからない・どちらとも言えない
e. 詩吟教室	1 参加したい	2 参加したいと思わない	3 わからない・どちらとも言えない
f. 畑プロジェクト	1 参加したい	2 参加したいと思わない	3 わからない・どちらとも言えない
g. 花壇の整備	1 参加したい	2 参加したいと思わない	3 わからない・どちらとも言えない
h. 編み物教室	1 参加したい	2 参加したいと思わない	3 わからない・どちらとも言えない
i. 皇治後援会	1 参加したい	2 参加したいと思わない	3 わからない・どちらとも言えない

質問

6

池田中学校MTPが行う活動が、今後どのようになれば・どのようになれば、  
あなたが参加しやすくなると思いませんか？ 自由にお書きください。

質問

7

あなたと池田中学校との関わりについてお伺いします。

あてはまるものすべてに○を付けてください。

- 1 あなたのご家族の中に、池田中学校の在校生がいる
- 2 あなたのご家族の中に、池田中学校の卒業生がいる
- 3 あなた自身が、池田中学校の卒業生である
- 4 職場体験で池田中学校の生徒を受け入れたことがある
- 5 あなた自身がMTPの運営に関わったことがある
- 6 その他 ( )
- 7 以上の中に当てはまるものはない・特に関わりはない

質問

8

池田中学校の生徒にどのような印象をお持ちですか？  
自由にお書きください。

あなたと、ご近所の関わりについてお伺いします。

質問

9

ご近所に、あなたからあいさつするような子どもがいますか？

(ここで言う「子ども」とは、中学生までを含みます)

- 1 いる                      2 いない

質問

10

ご近所に、あなたにあいさつするような子どもがいますか？

- 1 いる                      2 いない

質問

11

ご近所に、名前を知っている子どもは何人いますか？

- 1 0人(ひとりもない)      2 1~5人      3 6~10人      4 10人以上

質問

12

あなたが困ったときに相談できる、友人や知人がご近所にいらっしゃいますか？

- 1 いる                      2 いない



あなた自身のことをお伺いします。

質問 あなたの性別をお答えください

13

- 1 男性          2 女性

質問 あなたの年齢をお答えください

14

(          )歳

質問 あなたの職業をお答えください

15

- 1 学生          2 会社員・公務員          3 農商工自営業          4 自由業  
5 パート・アルバイト          6 専業主婦          7 無職  
8 その他 (          )

質問 あなたが現在の場所にお住まいになって何年たちますか？

16

- 1 1年未満          2 1年以上3年未満          3 3年以上5年未満  
4 5年以上10年未満          5 10年以上

質問 あなたは、現在どなたかと一緒にお住まいですか？

17

- 1 同居者がいる          2 同居者はいない(独り暮らしである)

質問 あなたは現在、次の人と同居していますか？ あてはまるものすべてに○を付けてください。

18

- 1 配偶者          2 未就学児          3 小学生          4 中学生          5 高校生  
6 大学生          7 あてはまる同居者はいない

質問 最後の質問です。

19

あなたは、現在お住まいの地域に愛着を持っていますか？

- 1 持っている  
2 どちらかといえば持っている  
3 どちらとも言えない  
4 あまり持っていない  
5 持っていない

以上で終わりです。

お忙しいところ、ご協力ありがとうございました。

文部科学省「社会教育による地域の教育力強化プロジェクト」における実証的共同研究報告書

発行 池田市教育コミュニティづくり推進連絡会

〒563-8666 大阪府池田市城南1丁目1番1号

電話 072-752-1111

FAX 072-754-1011